

調査結果の概要

第1部 世帯と子供の状況

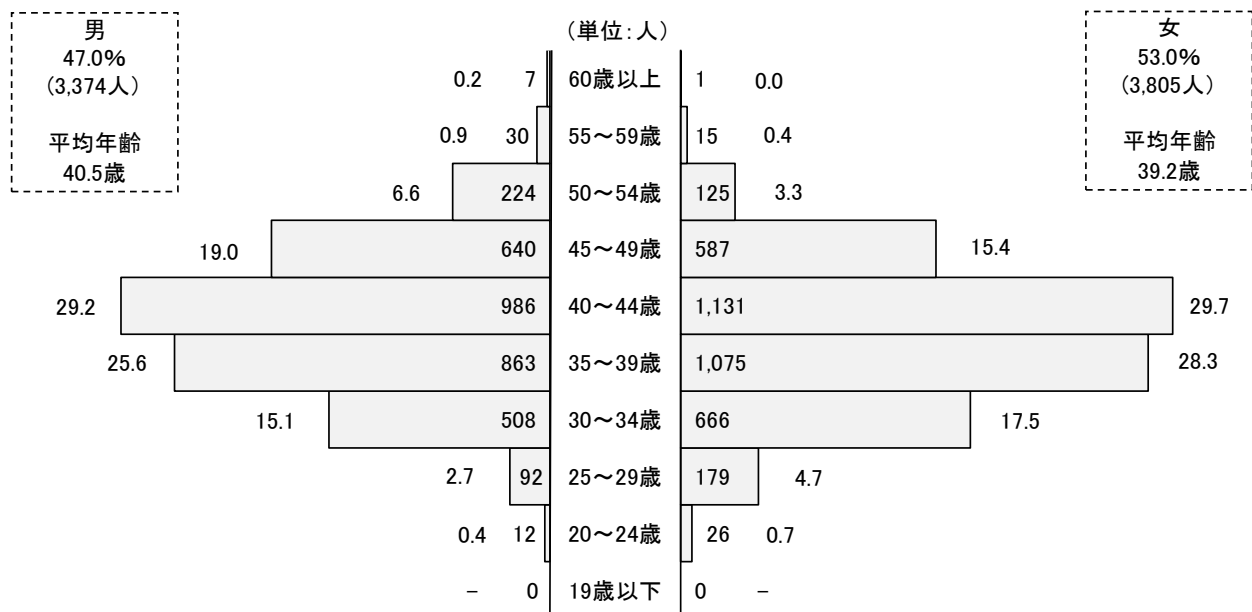
小学生までの子供を養育する3,318世帯及び20歳未満の子供を養育するひとり親543世帯を合わせた3,861世帯の概況並びにその父母（養育者）7,179人と子供6,762人の概況について述べる。

1 父母の状況

(1) 父母の状況－性・年齢階級別

父母の人数を年齢階級別にみると、男女ともに「40～44歳」が最も多く、男性は986人、女性は1,131人となっている。父母の平均年齢は男性40.5歳、女性39.2歳である。（図I-1-1 13p）

図I-1-1 父母の状況－性・年齢階級別



（注）男性3,374人には、年齢無回答の人を含むため、内訳の合計と一致しない。

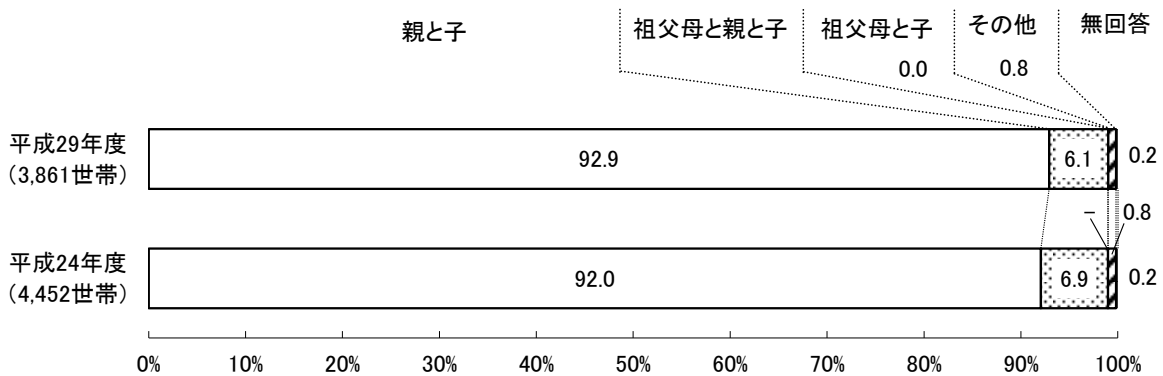
2 世帯の状況

(1) 家族類型－24年度調査との比較

「親と子」が9割強

家族類型は、「親と子」の割合が92.9%、「祖父母と親と子」が6.1%となっている。(図 I-1-3 16p)

図 I-1-3 家族類型－24年度調査との比較

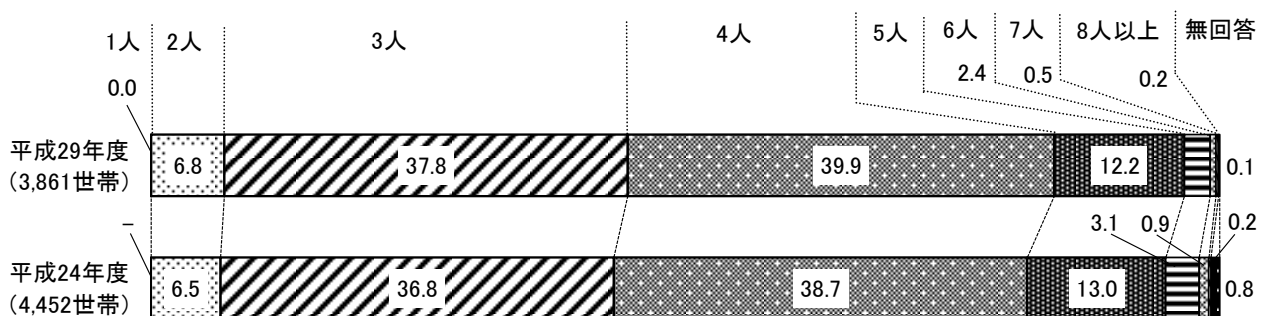


(2) 世帯人員－24年度調査との比較

「4人」の割合が最も高く、約4割

世帯人員は、「4人」の割合が39.9%で最も高く、次いで「3人」が37.8%となっている。(図 I-1-4 16p)

図 I-1-4 世帯人員－24年度調査との比較

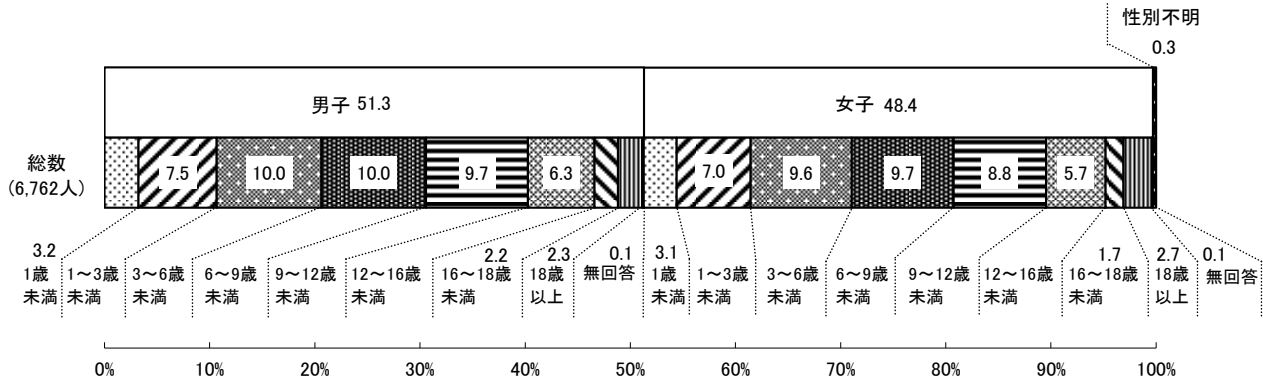


3 子供の状況

(1) 子供の状況－子供の性・年齢階級別

調査世帯の子供の総数は6,762人で、男子51.3%、女子48.4%である。(図I-1-5 17p)

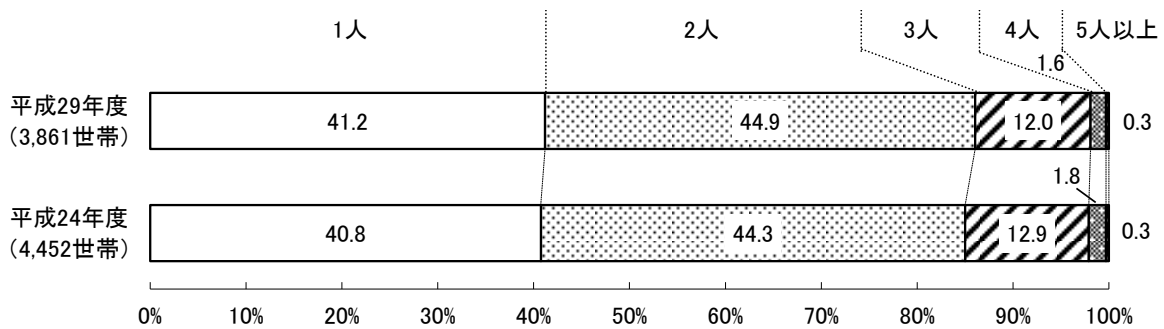
図I-1-5 子供の状況－子供の性・年齢階級別



(2) 子供の人数－24年度調査との比較

世帯の子供の人数は、「2人」の割合が44.9%で最も高く、次いで「1人」が41.2%となっている。(図I-1-6 17p)

図I-1-6 子供の人数－24年度調査との比較



4 住居の状況

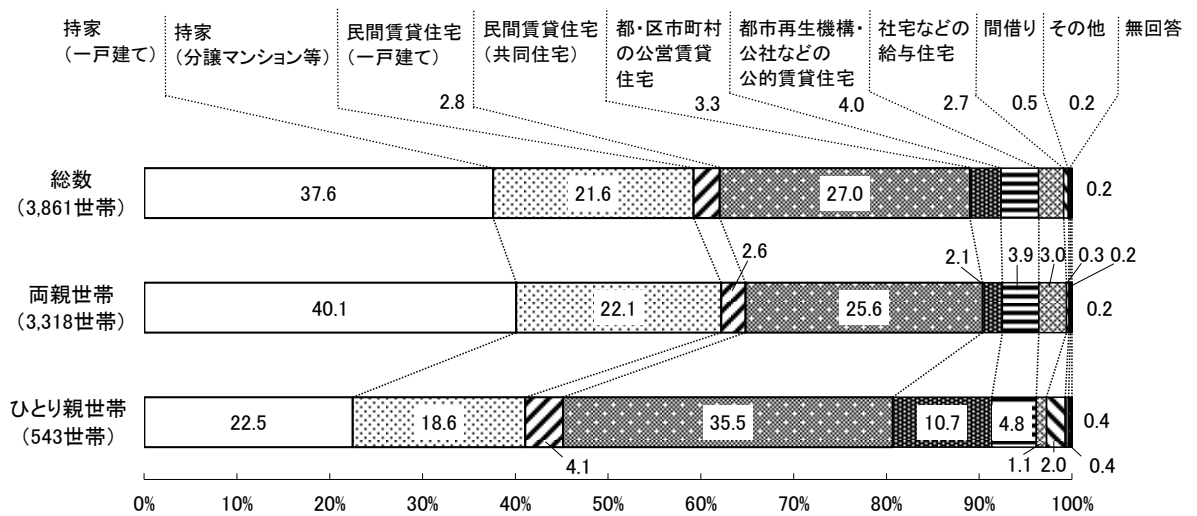
(1) 住居の種類－両親の有無別

両親世帯では「持家（一戸建て）」、ひとり親世帯では「民間賃貸住宅（共同住宅）」の割合が最も高い

住居の種類を両親の有無別にみると、両親世帯では「持家（一戸建て）」の割合が40.1%で最も高く、次いで「民間賃貸住宅（共同住宅）」の割合が25.6%となっている。

一方、ひとり親世帯では「民間賃貸住宅（共同住宅）」の割合が35.5%で最も高く、次いで「持家（一戸建て）」の割合が22.5%となっている。（図 I-1-11 21p）

図 I-1-11 住居の種類－両親の有無別



5 父母の就労状況

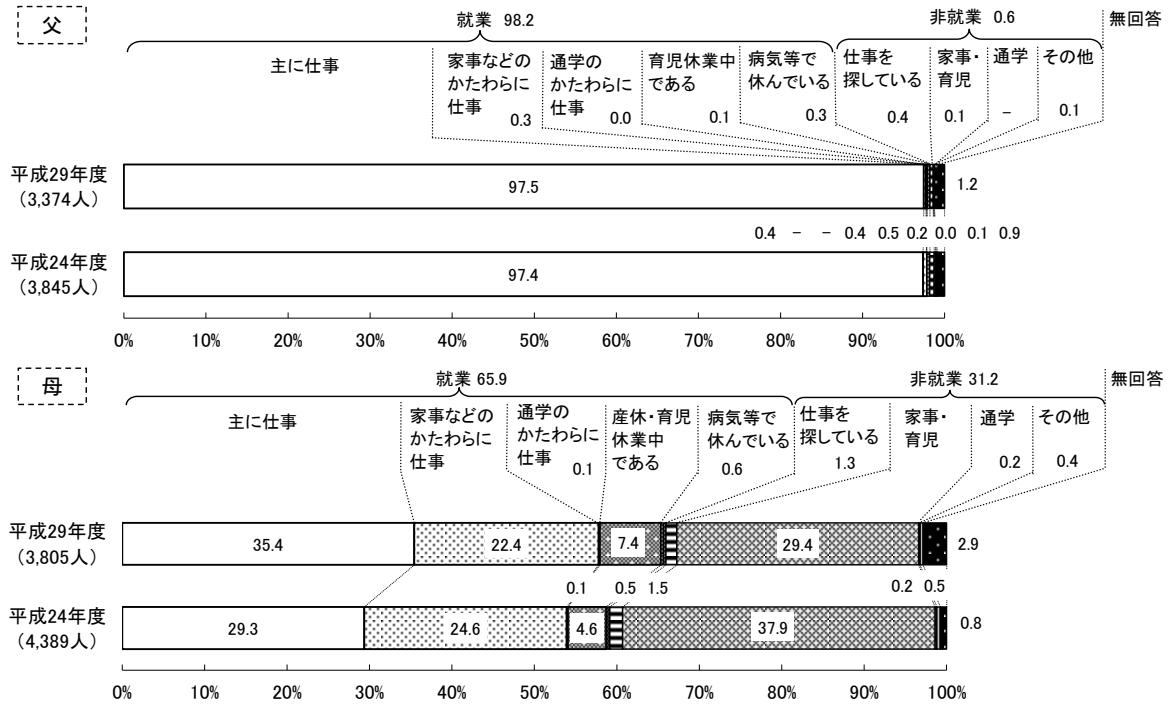
(1) 就業状況

母の「就業」の割合は、6割超

「就業」の割合は、父が98.2%、母は65.9%となっている。(図I-1-12 23p)

(注)「就業」している人とは、就労の状況を問う設問で「主に仕事」「家事などのかたわらに仕事」「通学のかたわらに仕事」「育児休業中である」「病気等で休んでいる」と回答した人である。

図I-1-12 就業状況



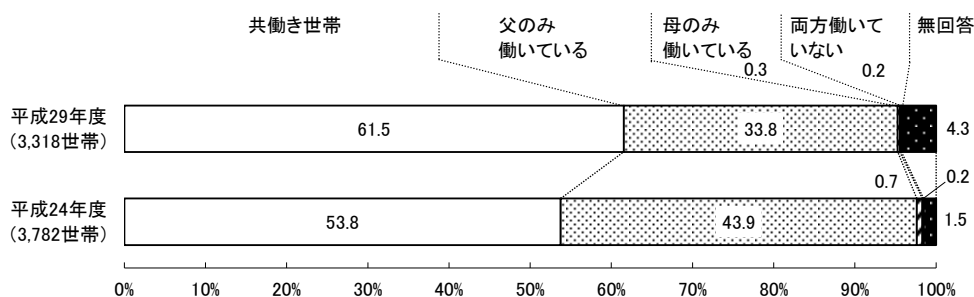
(注) 統計比率を合算した比率は、実数を用いて算出しているため、各比率を単純に合算した比率とは一致しない場合がある。

(2) 共働きの状況－24年度調査との比較

「共働き世帯」の割合が増加し、6割強

両親のいる世帯(3,318世帯)の共働きの状況をみると、「共働き世帯」の割合が61.5%で、24年度調査(53.8%)から7.7ポイント増加している。(図I-1-13 24p)

図I-1-13 共働きの状況－24年度調査との比較



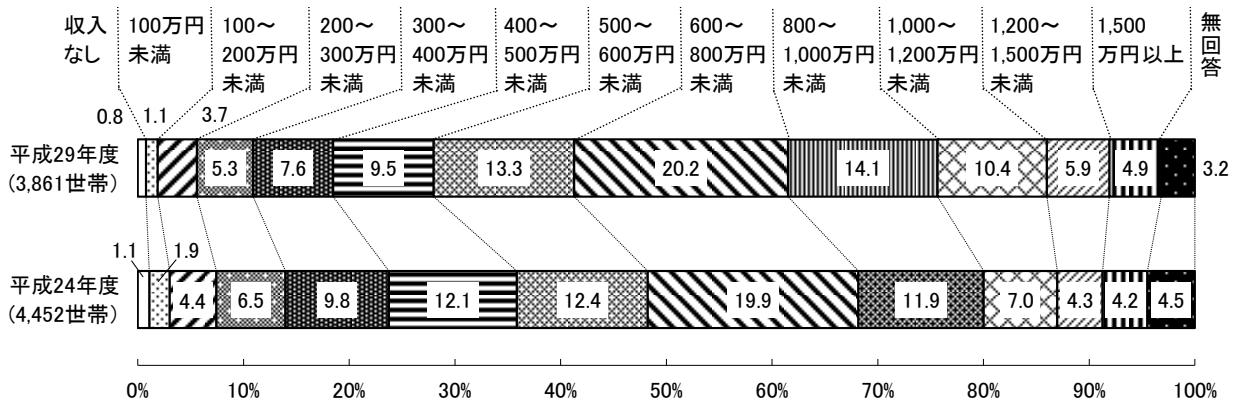
6 世帯収入の状況

(1) 世帯の年間収入－24年度調査との比較

世帯の年間収入は「600～800万円未満」の割合が最も高く、約2割

世帯の年間収入は、「600～800万円未満」の割合が20.2%で最も高く、次いで「800～1,000万円未満」が14.1%、「500～600万円未満」が13.3%となっている。(図I-1-21)

図I-1-21 世帯の年間収入－24年度調査との比較



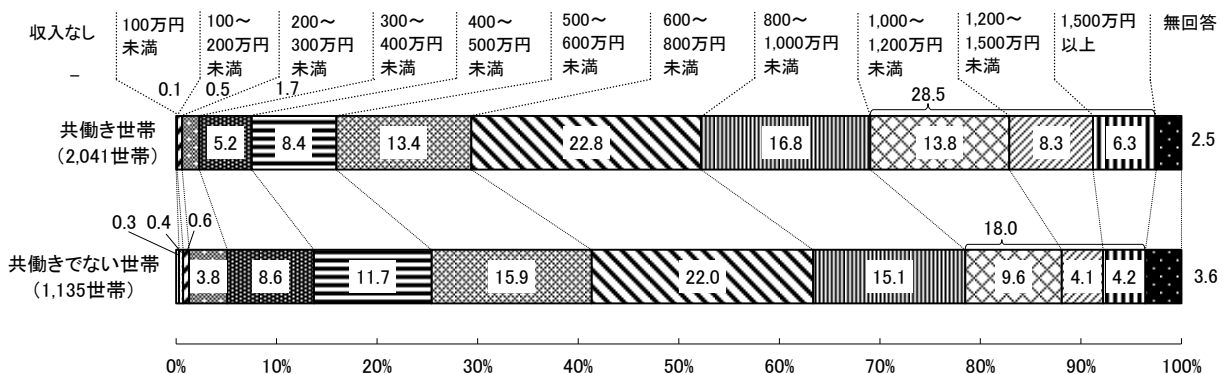
(2) 世帯の年間収入－共働きの状況別

年間収入が「1,000万円以上」の世帯は、共働き世帯では2割超

世帯の年間収入を共働きの状況別にみると、共働き世帯、共働きでない世帯ともに「600～800万円未満」の割合が最も高くなっている(22.8%、22.0%)。

「1,000～1,200万円未満」、「1,200～1,500万円未満」、「1,500万円以上」を合わせた「1,000万円以上」の世帯は、共働き世帯が28.5%、共働きでない世帯が18.0%となっている。(図I-1-22 36p)

図I-1-22 世帯の年間収入－共働きの状況別



(注) 両親世帯 3,318 世帯から、共働きかどうか不明な世帯 142 世帯を除いた、3,176 世帯について集計した。

(注) 統計比率を合算した比率は、実数を用いて算出しているため、各比率を単純に合算した比率とは一致しない場合がある。

就学前の子供がいる世帯

就学前の子供がいる世帯 2,286 世帯の、就学前の子供 2,999 人の状況について述べる。

1 日中の子供の預け先（主なところ）

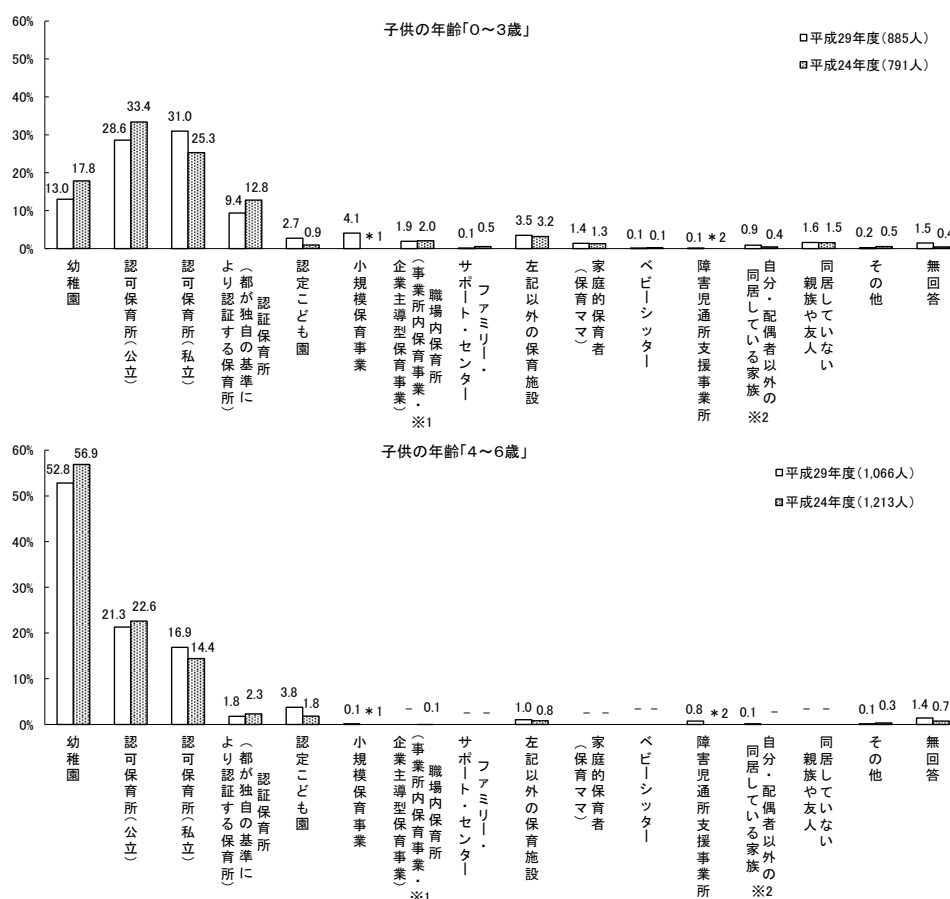
(1) 日中の子供の預け先（主なところ）－子供の年齢別、24年度調査との比較

0～3歳では「認可保育所（私立）」、4～6歳では「幼稚園」の割合がそれぞれ最も高い

日中の子供の主な預け先を子供の年齢別にみると、子供の年齢が0～3歳では、「認可保育所（私立）」の割合が31.0%で最も高く、次いで「認可保育所（公立）」の割合が28.6%となっている。「認可保育所（私立）」の割合は24年度調査（25.3%）から5.7ポイント増加し、「認可保育所（公立）」の割合は24年度調査（33.4%）から4.8ポイント減少している。

また、子供の年齢が4～6歳では、「幼稚園」の割合が52.8%で、24年度調査（56.9%）から4.1ポイント減少している。（図I-2-4 42p）

図I-2-4 日中の子供の預け先（主なところ）－子供の年齢別、24年度調査との比較



(注) 29年度の合計が1,955人（通園させたり預けたりしている子供の合計）にならないのは、年齢不明の子供が4人いるためである。

(注) 24年度調査では、※1は「職場内保育所」、※2は「その他の家族」としていた。

(注) ※1、※2は24年度調査では、選択肢を設けていないため、データが存在しない。

2 子供を預けていて不満に思うこと

(1) 子供を預けていて不満に思うこと〔複数回答〕一日中の子供の預け先（主なところ）別

認可保育所では「子供が病気のとときに利用できない」、幼稚園では「特にない」の割合が最も高い

子供の預け先に関して困ることや不満に思うことを、日中の子供の主な預け先別にみると、幼稚園では「特にない」の割合が44.0%と最も高く、次いで「費用が高い」が25.9%、「子供が病気のとときに利用できない」が19.3%となっている。

認可保育所（公立）と認可保育所（私立）では、「子供が病気のとときに利用できない」の割合が最も高く（46.7%、46.9%）次いで、「特にない」（32.1%、33.3%）、「夜間や休日に利用できない」（16.7%、13.9%）となっている。（表 I-2-6 53p）

表 I-2-6 子供を預けていて不満に思うこと〔複数回答〕

一日中の子供の預け先（主なところ）別

	総数	希望する時間まで子供を預かってくれない	夜間や休日に利用できない	子供が病気のとときに利用できない	教育・保育の内容が良くない	費用が高い	融通がきかない	対応が柔軟ではない、	方針が養育者と異なる	先生や保育者の教育の	先生や保育者と養育者との交流が少ない	給食の内容が良くない	丁寧	通うのに不便である	その他	特にない	無回答
総数	100.0 (1,905)	9.9	13.7	36.3	2.4	19.7	6.5	1.0	2.5	3.4	0.8	8.1	6.9	35.6	2.0		
幼稚園	100.0 (679)	11.6	11.5	<u>19.3</u>	1.5	<u>25.9</u>	6.2	0.7	2.7	6.6	1.0	5.0	7.2	<u>44.0</u>	1.5		
認可保育所(公立)	100.0 (480)	10.4	<u>16.7</u>	<u>46.7</u>	3.1	11.7	9.6	1.9	2.7	1.9	0.4	9.4	4.4	<u>32.1</u>	2.5		
認可保育所(私立)	100.0 (454)	6.8	<u>13.9</u>	<u>46.9</u>	2.9	9.3	5.1	1.1	3.1	0.4	1.1	8.6	6.8	<u>33.3</u>	2.4		
認証保育所 (都が独自の基準により 認証する保育所)	100.0 (102)	5.9	15.7	42.2	1.0	46.1	1.0	1.0	1.0	-	-	14.7	6.9	20.6	3.9		
認定こども園	100.0 (64)	6.3	6.3	29.7	1.6	21.9	4.7	-	1.6	9.4	3.1	4.7	-	45.3	-		
小規模保育事業	100.0 (37)	13.5	10.8	51.4	10.8	29.7	13.5	-	-	2.7	-	16.2	13.5	21.6	-		
職場内保育所 (事業所内保育事業・企業主導型保育事業)	100.0 (17)	-	29.4	58.8	-	29.4	-	-	-	-	-	17.6	23.5	17.6	-		
ファミリー・サポート・センター	100.0 (1)	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-		
上記以外の保育施設	100.0 (45)	13.3	13.3	55.6	2.2	48.9	6.7	-	-	-	-	13.3	11.1	15.6	2.2		
家庭的保育者(保育ママ)	100.0 (12)	41.7	16.7	41.7	8.3	-	-	-	8.3	8.3	-	-	33.3	25.0	-		
ベビーシッター	100.0 (1)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-		
障害児通所支援事業所	100.0 (9)	22.2	22.2	22.2	-	11.1	-	-	-	11.1	-	33.3	44.4	11.1	-		
その他	100.0 (1)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	

3 子供の預け先を選ぶ際に重視すること

(1) 子供の預け先を選ぶ際に重視すること〔複数回答〕

一日中の子供の預け先（主なところ）別

幼稚園では「丁寧に子供を見てくれる」の割合が最も高く 5 割超、認可保育所では「通うのに便利な場所にある」の割合が最も高く 6 割強

平日の日中、通園させたり預けたりしている子供（1,955 人）の、子供の預け先を選ぶ際に重視することを、日中の子供の主な預け先別にみると、幼稚園では「丁寧に子供を見てくれる」の割合が 58.3%で最も高く、次いで「教育・保育が充実している」が 47.3%、「通うのに便利な場所にある」が 44.9%となっている。

認可保育所（公立）と認可保育所（私立）では「通うのに便利な場所にある」の割合が最も高く（64.2%、63.2%）、次いで「丁寧に子供を見てくれる」（46.9%、55.1%）、「希望する時間まで子供を預かってくれる」（44.6%、42.3%）となっている。（表 I-2-7 58p）

表 I-2-7 子供の預け先を選ぶ際に重視すること〔複数回答〕

一日中の子供の預け先（主なところ）別

	総数	預か 希望 する 時間 まで 子供 を	夜間 や休 日でも 利用 できる	子供 が病 気の とき でも 利用 できる	教育 ・保 育が 充実 して いる	高 く ない 費用 で利 用 でき る	柔 軟な 対応 をし てく れる	が 養 育者 と一 致し てい る 教育 の方 針	交 流が 盛ん であ る 先生 や保 育者 との	給 食の 内容 が良 い	丁 寧に 子供 を見 てく れる	通 うの に便 利な 場所 にあ る	そ の 他	特 に ない	無 回 答
総数	100.0 (1,955)	35.0	3.0	5.9	38.1	26.3	18.6	21.3	7.9	9.9	53.3	55.5	2.4	0.9	4.6
幼稚園	100.0 (679)	20.2	1.8	3.2	<u>47.3</u>	29.7	16.2	34.0	10.6	6.5	<u>58.3</u>	<u>44.9</u>	2.2	0.9	5.0
認可保育所(公立)	100.0 (480)	<u>44.6</u>	3.8	9.8	27.7	28.1	19.8	12.1	7.1	8.1	<u>46.9</u>	<u>64.2</u>	2.5	1.3	4.4
認可保育所(私立)	100.0 (454)	<u>42.3</u>	3.1	6.6	33.9	19.8	18.9	14.1	5.9	14.8	<u>55.1</u>	<u>63.2</u>	2.0	0.9	4.6
認証保育所 (都が独自の基準により認証する保育所)	100.0 (102)	45.1	2.9	3.9	40.2	20.6	25.5	18.6	9.8	11.8	43.1	53.9	4.9	1.0	4.9
認定こども園	100.0 (64)	40.6	-	4.7	45.3	31.3	18.8	18.8	7.8	21.9	48.4	46.9	3.1	-	1.6
小規模保育事業	100.0 (37)	59.5	5.4	5.4	24.3	32.4	18.9	10.8	5.4	10.8	45.9	67.6	2.7	-	2.7
職場内保育所 (事業所内保育事業・企業主導型保育事業)	100.0 (17)	35.3	11.8	5.9	41.2	17.6	17.6	11.8	-	11.8	58.8	70.6	-	-	5.9
ファミリー・サポート・センター	100.0 (1)	-	-	-	100.0	100.0	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-
上記以外の保育施設	100.0 (45)	40.0	6.7	8.9	53.3	17.8	22.2	26.7	2.2	2.2	53.3	51.1	-	-	-
家庭的保育者(保育ママ)	100.0 (12)	16.7	-	16.7	50.0	16.7	16.7	16.7	-	16.7	91.7	58.3	-	-	-
ベビーシッター	100.0 (1)	-	-	-	-	100.0	100.0	-	-	-	100.0	-	-	-	-
障害児通所支援事業所	100.0 (9)	22.2	-	11.1	11.1	-	11.1	33.3	11.1	-	100.0	55.6	11.1	-	-
自分・配偶者以外の同居している家族	100.0 (9)	33.3	11.1	-	22.2	33.3	33.3	22.2	11.1	11.1	77.8	33.3	-	-	-
同居していない親族や友人	100.0 (14)	28.6	-	-	57.1	64.3	14.3	7.1	-	14.3	50.0	64.3	-	-	-
その他	100.0 (3)	-	-	-	-	33.3	-	66.7	-	33.3	66.7	66.7	33.3	-	-

小学生の子供がいる世帯

小学生の子供がいる 1,992 世帯の小学生の子供 2,534 人の状況について述べる。

1 放課後過ごしている場所

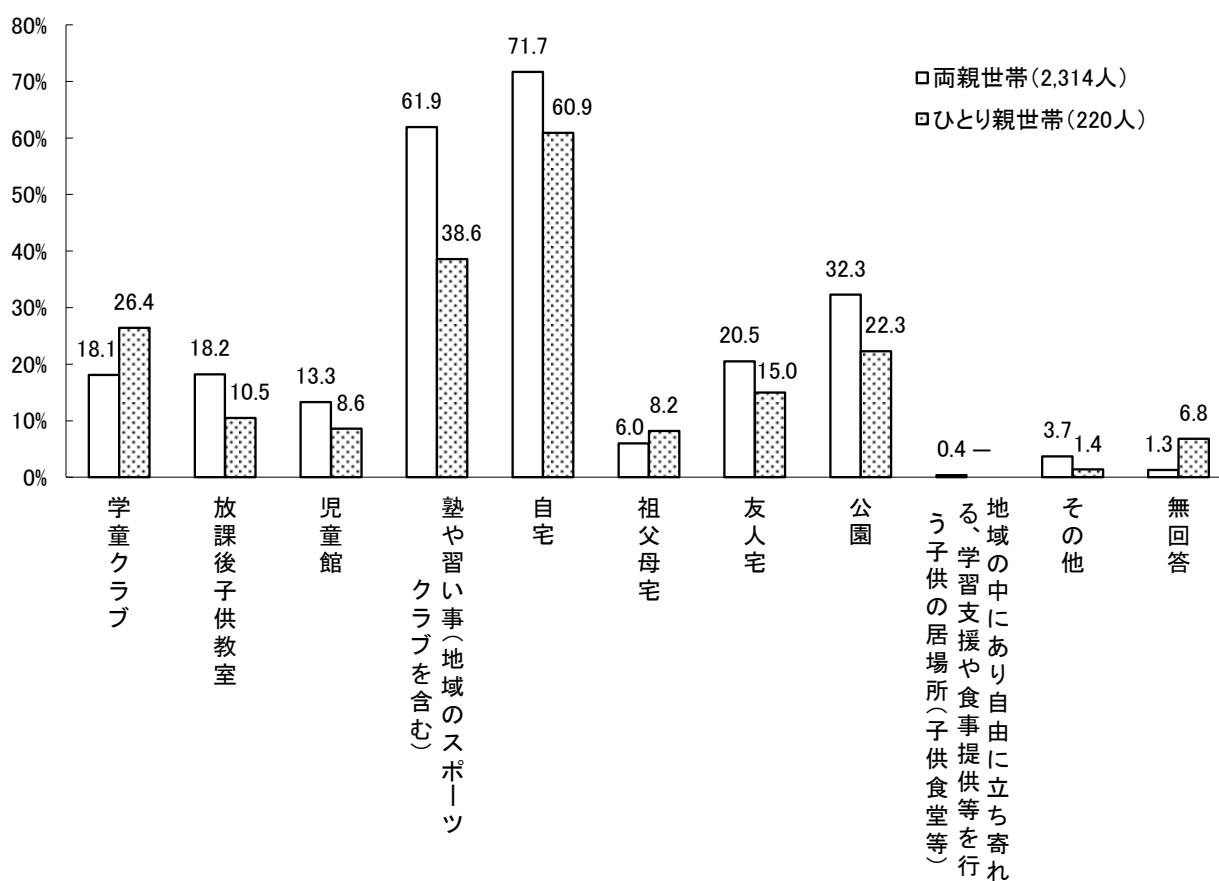
(1) 放課後過ごしている場所〔複数回答〕－両親の有無別

「学童クラブ」で過ごす割合は両親世帯が 1 割超、ひとり親世帯が 2 割超

放課後過ごしている場所を両親の有無別にみると、「自宅」の割合は、両親世帯が 71.7%、ひとり親世帯は 60.9%で、両親世帯の方が 10.8 ポイントが高くなっている。また、「塾や習い事(地域のスポーツクラブを含む)」の割合は、両親世帯が 61.9%、ひとり親世帯は 38.6%で、両親世帯の方が 23.3 ポイント高くなっている。

一方、「学童クラブ」の割合は、ひとり親世帯が 26.4%、両親世帯は 18.1%でひとり親世帯の方が 8.3 ポイント高くなっている。(図 I-3-3 69p)

図 I-3-3 放課後過ごしている場所〔複数回答〕－両親の有無別



2 学童クラブの利用状況

(1) 学童クラブを利用するにあたって望むこと〔複数回答〕－両親の有無別

両親世帯、ひとり親世帯ともに「行き帰りが安全であること」の割合が最も高い

学童クラブに望むことを両親の有無別にみると、両親世帯、ひとり親世帯ともに、「行き帰りが安全であること」の割合が最も高くなっている（63.9%、58.5%）。

次いで、両親世帯では、「学校から近いこと」の割合が59.2%、「自宅から近いこと」が47.3%であるのに対し、ひとり親世帯では、「学校から近いこと」、「学校が休みの日に利用できること」の割合が、ともに41.5%となっている。（表 I-3-6 81p）

表 I-3-6 学童クラブを利用するにあたって望むこと〔複数回答〕－両親の有無別

	総数	自宅から近いこと	行き帰りが安全であること	学校から近いこと	利用時間が延長されること	建物や設備（遊び道具など）が整っていること	建物の安全管理面（耐震構造など）が行き届いていること	指導内容が充実すること	指導員と養育者の交流（保護者会、イベント等への養育者参加等）があること	小学校高学年の子供を受け入れること	障害児を受け入れること	学校が休みの日に利用できること	夕食を提供してくれること	長期休暇中（夏休み等）に昼食を提供してくれること	おやつを充実させること	学童クラブを利用していない子供との交流ができること	子供の意見を十分取り入れること	費用がかからないこと	情報発信があること	子育てに関する悩みなどの相談に対する対応をしてくれること	病気や怪我等に適切に処置してくれること	子供への多様な遊びや活プログラムを提供してくれること	応じた専門的な支援をしてもらえること	その他	無回答
総数	100.0 (438)	46.1	63.2	57.1	16.2	17.1	22.6	29.0	2.5	21.2	2.3	29.5	4.8	37.2	5.3	6.6	5.7	13.5	5.0	3.2	17.4	25.1	7.8	1.8	2.3
両親世帯	100.0 (385)	47.3	63.9	59.2	15.1	18.4	23.9	30.4	2.3	19.5	2.1	27.8	3.6	38.2	4.4	6.8	5.7	13.0	4.9	3.6	17.7	26.2	7.5	1.3	2.3
ひとり親世帯	100.0 (53)	37.7	58.5	41.5	24.5	7.5	13.2	18.9	3.8	34.0	3.8	41.5	13.2	30.2	11.3	5.7	5.7	17.0	5.7	-	15.1	17.0	9.4	5.7	1.9

第2部 20歳未満の子供を養育するひとり親世帯

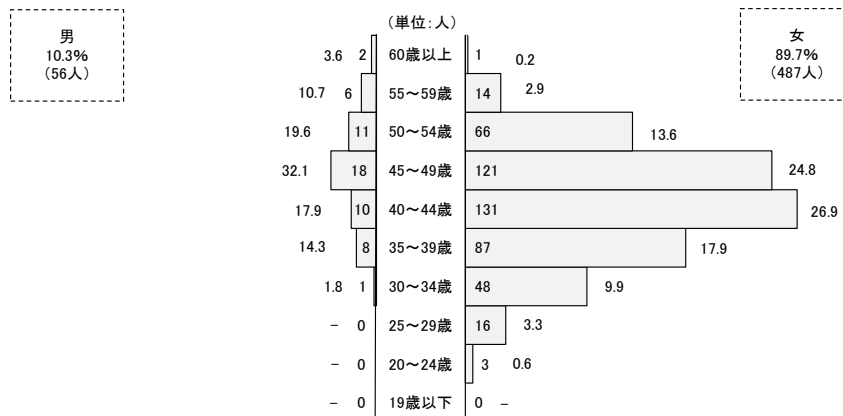
20歳未満の子供を養育するひとり親世帯543世帯の概況並びにその子供874人の概況について述べる。

1 父母の状況

(1) 父母の状況－性・年齢階級別

ひとり親世帯の父母の人数を年齢階級別にみると、父は「45～49歳」が18人で最も多く、母は「40～44歳」が131人で最も多くなっている。(図Ⅱ-1-1 85p)

図Ⅱ-1-1 父母の状況－性・年齢階級別



2 世帯の状況

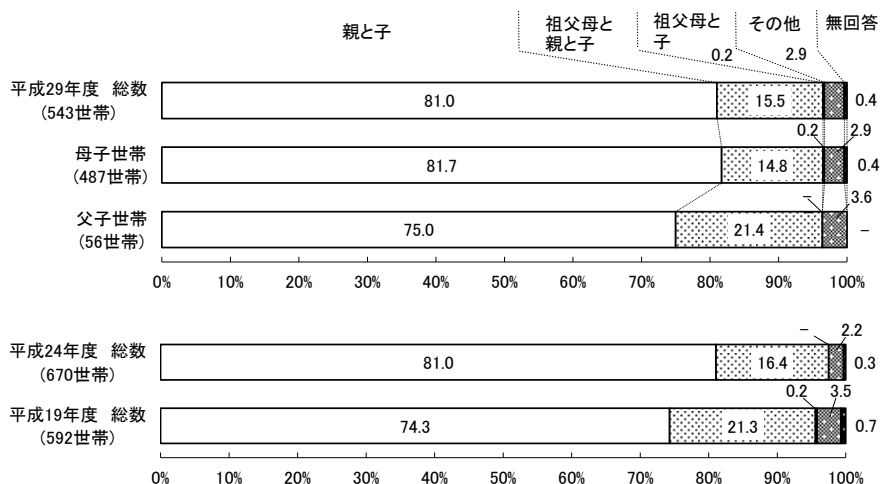
(1) 家族類型－世帯類型（母子・父子世帯）別、過去調査との比較

家族類型は「親と子」の割合が8割強

家族類型は、「親と子」の割合が81.0%で、24年度調査（81.0%）と同様の数値になっている。

世帯類型（母子・父子世帯）別にみると、「親と子」の割合は、母子世帯が81.7%、父子世帯は75.0%となっている。(図Ⅱ-1-3 86p)

図Ⅱ-1-3 家族類型－世帯類型（母子・父子世帯）別、過去調査との比較

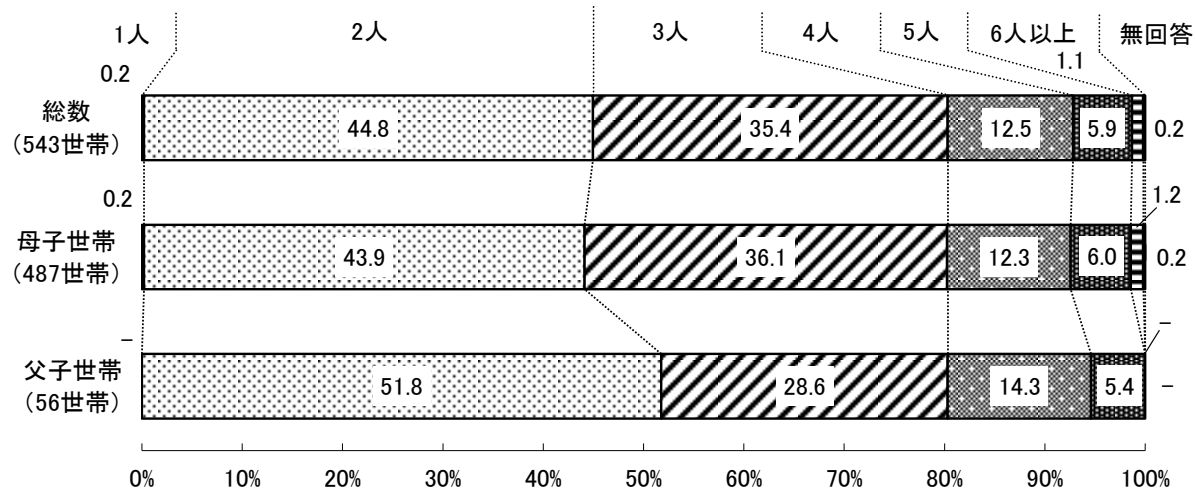


(2) 世帯人員－世帯類型（母子・父子世帯）別

世帯人員は「2人」の割合が最も高く、4割強

世帯人員は、「2人」の割合が44.8%で最も高く、次いで「3人」が35.4%となっている。
 世帯類型（母子・父子世帯）別にみると、「2人」の割合は、母子世帯が43.9%、父子世帯は51.8%となっている。（図Ⅱ-1-4 87p）

図Ⅱ-1-4 世帯人員－世帯類型（母子・父子世帯）別

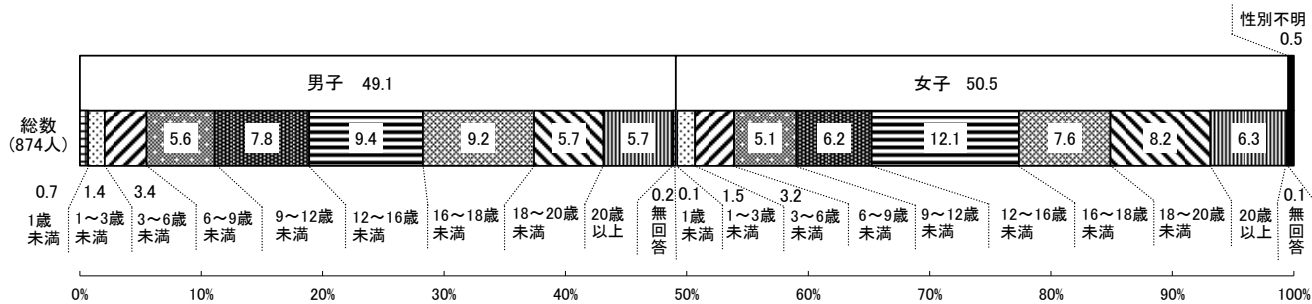


3 子供の状況

(1) 子供の性・年齢階級

子供の総数は874人で、男子49.1%、女子50.5%である。（図Ⅱ-1-5 87p）

図Ⅱ-1-5 子供の性・年齢階級



4 父母の就労状況

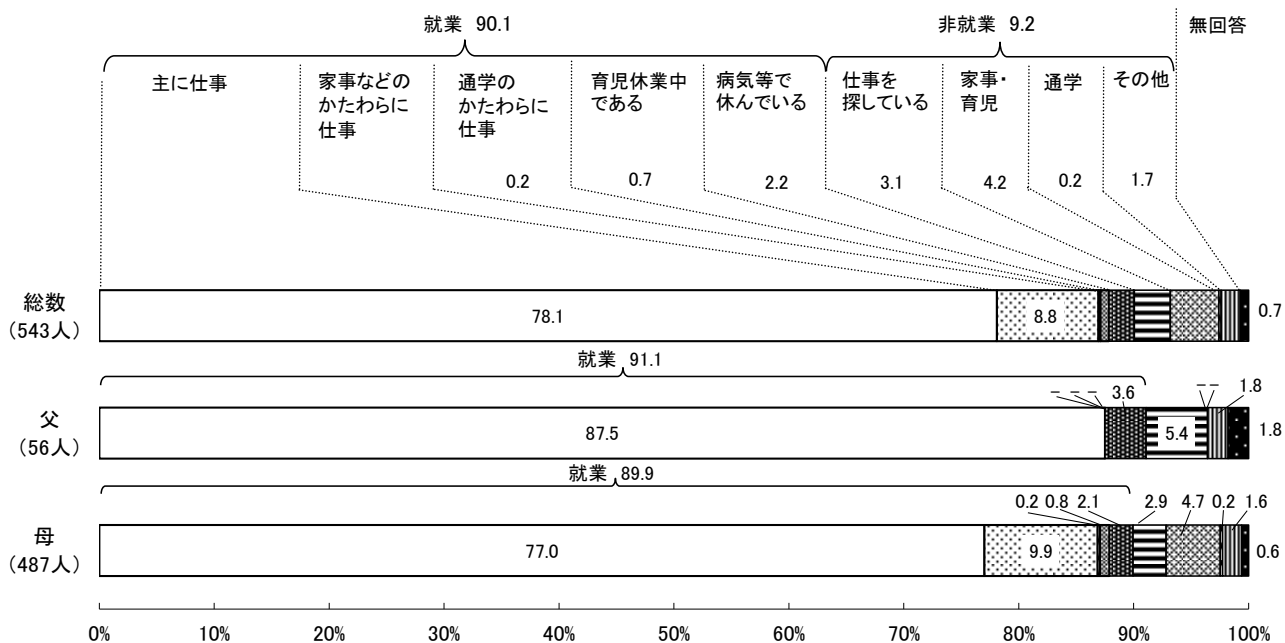
(1) 就業状況

「就業」の割合は、父は9割強、母は約9割

「就業」の割合は、父が91.1%、母は89.9%となっている。(図Ⅱ-1-9 92p)

(注)「就業」している人とは、就労の状況を問う設問で「主に仕事」「家事などのかたわらに仕事」「通学のかたわらに仕事」「育児休業中である」「病気等で休んでいる」と回答した人である。

図Ⅱ-1-9 就業状況



(注) 統計比率を合算した比率は、実数を用いて算出しているため、各比率を単純に合算した比率とは一致しない場合がある。

5 世帯収入の状況

(1) 世帯の年間収入—世帯類型（母子・父子世帯）別、24年度調査との比較

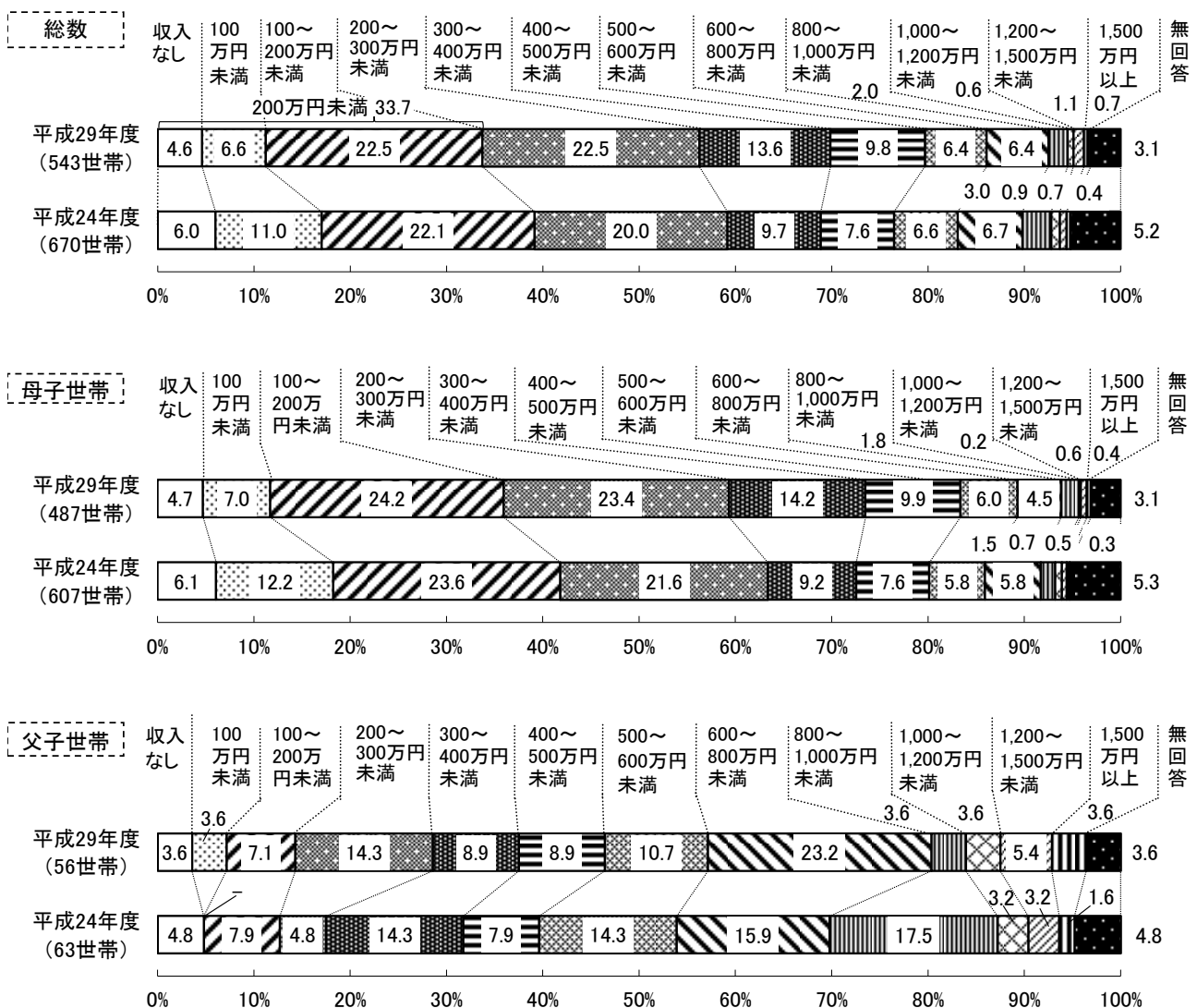
年収「200万円未満」の世帯が3割強

年間収入は、「100～200万円未満」と「200～300万円未満」の割合が22.5%で最も高く、次いで「300～400万円未満」が13.6%となっている。「収入なし」、「100万円未満」、「100～200万円未満」を合わせた「200万円未満」の割合は33.7%となっている。

年間収入を世帯類型（母子・父子世帯）別にみると、母子世帯では「100～200万円未満」の割合が24.2%で最も高く、次いで「200～300万円未満」が23.4%、「300～400万円未満」が14.2%となっている。

父子世帯では、「600～800万円未満」の割合が23.2%で最も高く、次いで「200～300万円未満」が14.3%、「500～600万円未満」が10.7%となっている。（図Ⅱ-1-13 96p）

図Ⅱ-1-13 世帯の年間収入—世帯類型（母子・父子世帯）別、24年度調査との比較



6 ひとり親世帯になった当時困ったこと、現在困っていること

(1) ひとり親世帯になって現在困っていること〔複数回答〕－世帯類型（母子・父子世帯）別

母子世帯では「家計について」の割合が、父子世帯では「子供の世話について」、「子供の教育・進路・就職について」の割合が最も高い

暮らし向きのことや子育てに関して、ひとり親になって現在困っていると回答した世帯（372世帯）を、世帯類型（母子・父子世帯）別にみると、母子世帯では、「家計について」の割合が73.6%で最も高く、次いで「子供の教育・進路・就職について」が55.7%となっている。

父子世帯では、「子供の世話について」、「子供の教育・進路・就職について」の割合が55.6%で最も高く、次いで「仕事について」、「家事について」が25.9%となっている。（表Ⅱ-2-3 105p）

表Ⅱ-2-3 ひとり親世帯になって現在困っていること〔複数回答〕

－世帯類型（母子・父子世帯）別

	総数	家計について	仕事について	住居について	家事について	健康について	親族の健康・介護について	子供の世話について	子供の教育・進路・就職について	社会的偏見（世間体）について	その他
総数	100.0 (372)	69.1	30.1	15.1	6.5	19.4	11.3	24.2	55.6	8.3	2.7
母子世帯	100.0 (345)	<u>73.6</u>	30.4	16.2	4.9	20.0	11.3	21.7	<u>55.7</u>	8.7	2.6
父子世帯	100.0 (27)	11.1	<u>25.9</u>	-	<u>25.9</u>	11.1	11.1	<u>55.6</u>	<u>55.6</u>	3.7	3.7

7 転職希望

(1) 転職の希望－世帯類型（母子・父子世帯）別

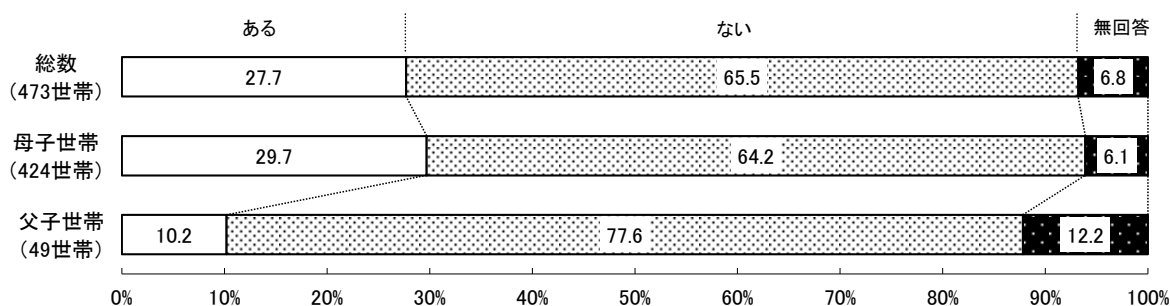
転職の希望が「ある」母子世帯は約3割

働いている世帯（473世帯）に転職する希望があるか聞いたところ、転職の希望が「ある」の割合は27.7%となっている。

転職の希望があるかを世帯類型（母子・父子世帯）別にみると、「ある」の割合は、母子世帯が29.7%、父子世帯が10.2%となっている。（図Ⅱ-5-1 121p）

（注）「働いている」世帯とは、就労の状況を問う設問で「主に仕事」「家事などのかたわらに仕事」「通学のかたわらに仕事」と回答した世帯である。

図Ⅱ-5-1 転職の希望－世帯類型（母子・父子世帯）別

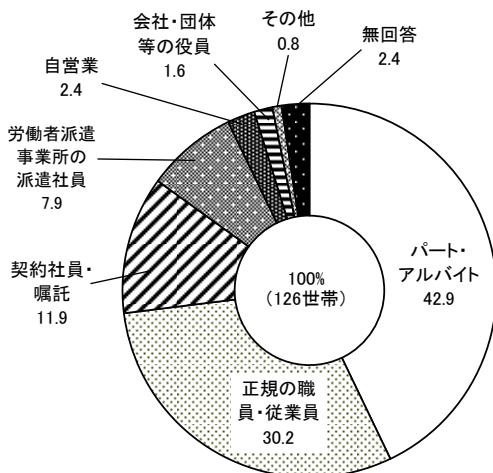


(2) 母の転職の希望－従業上の地位別

転職の希望が「ある」母子世帯の4割強は、パート・アルバイト

転職の希望が「ある」と回答した母子世帯（126世帯）を従業上の地位別にみると、「パート・アルバイト」の割合が42.9%で最も高くなっている。（図Ⅱ-5-2 121p）

図Ⅱ-5-2 母の転職の希望－従業上の地位別



（注）父子世帯は、転職希望者が5世帯のため省略した。

(3) 母の転職したい理由〔複数回答〕－従業上の地位別

「収入が良くない」の割合は、パート・アルバイトで7割強

母の転職したい理由を従業上の地位別にみると、パート・アルバイトでは、「収入が良くない」の割合が74.1%で最も高く、母の総数の割合（59.5%）に比べ14.6ポイント高くなっている。

契約社員・嘱託では、「将来が不安」の割合が80.0%で最も高く、母の総数の割合（59.5%）に比べ20.5ポイント高くなっている。（表Ⅱ-5-1 123p）

表Ⅱ-5-1 母の転職したい理由〔複数回答〕－従業上の地位別

	総数	収入が良くない	勤め先が自宅から遠い	健康がすぐれない	仕事の内容が良くない	職場環境が合わない	労働時間が合わない	将来が不安	理由 子供の健康・教育上の	親の介護	その他	無回答
総数	100.0 (126)	59.5	11.9	6.3	13.5	10.3	20.6	59.5	11.1	3.2	10.3	3.2
自営業	100.0 (3)	66.7	33.3	-	-	33.3	66.7	66.7	33.3	-	-	-
正規の職員・従業員	100.0 (38)	47.4	21.1	5.3	18.4	7.9	23.7	34.2	10.5	5.3	13.2	5.3
会社・団体等の役員	100.0 (2)	-	-	-	50.0	50.0	100.0	50.0	50.0	-	-	-
パート・アルバイト	100.0 (54)	74.1	5.6	7.4	5.6	11.1	18.5	68.5	13.0	1.9	5.6	1.9
労働者派遣事業所の派遣社員	100.0 (10)	40.0	10.0	-	30.0	-	-	60.0	-	10.0	20.0	10.0
契約社員・嘱託	100.0 (15)	53.3	13.3	13.3	20.0	6.7	20.0	80.0	6.7	-	20.0	-
その他	100.0 (1)	100.0	-	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-

(注) 父子世帯は、転職希望者が5世帯のため省略した。

第3部 子育てに関する実態と意識

小学生までの子供を養育する世帯 4,800 世帯と 20 歳未満の子供を養育するひとり親世帯 1,200 世帯の子供の父母（養育者を含む。）6,730 人の状況と意識について述べる。

1 就労について

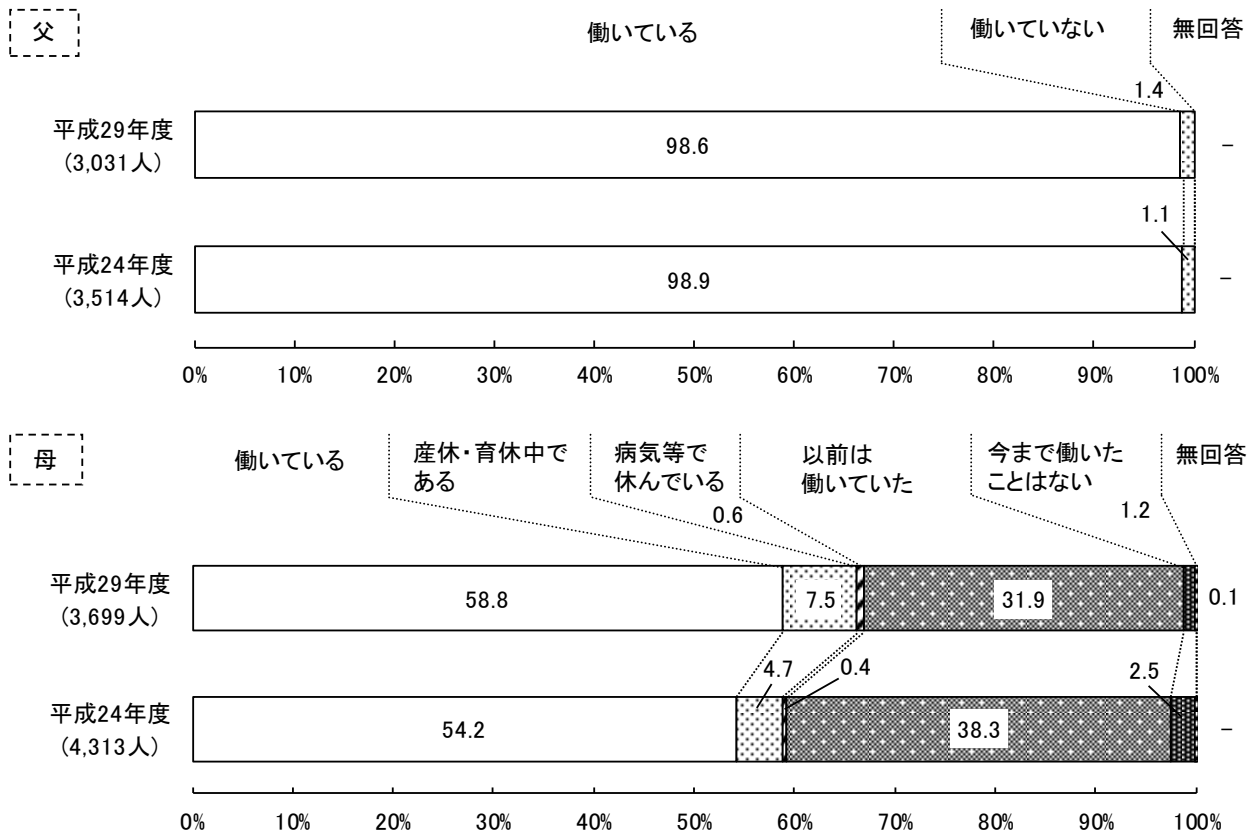
(1) 就労の状況－24 年度調査との比較

母の「働いている」割合は 5 割超

対象者全員に就労の状況を聞いたところ、「働いている」の割合は、父が 98.6%、母は 58.8% となっている。また、母は、「産休・育休中である」の割合が 7.5%、「以前は働いていた」の割合は 31.9%となっている。

24 年度調査と比較すると、母の「働いている」の割合は 4.6 ポイント増加している一方で、「以前は働いていた」の割合は 6.4 ポイント減少している。（図Ⅲ-1-1 128 p）

図Ⅲ-1-1 就労の状況－24 年度調査との比較



(注) 父の「産休・育休中である」「病気等で休んでいる」「以前は働いていた」「今まで働いたことはない」の4項目については、いずれも該当なし又は少数であったため、「働いていない」としてまとめている。

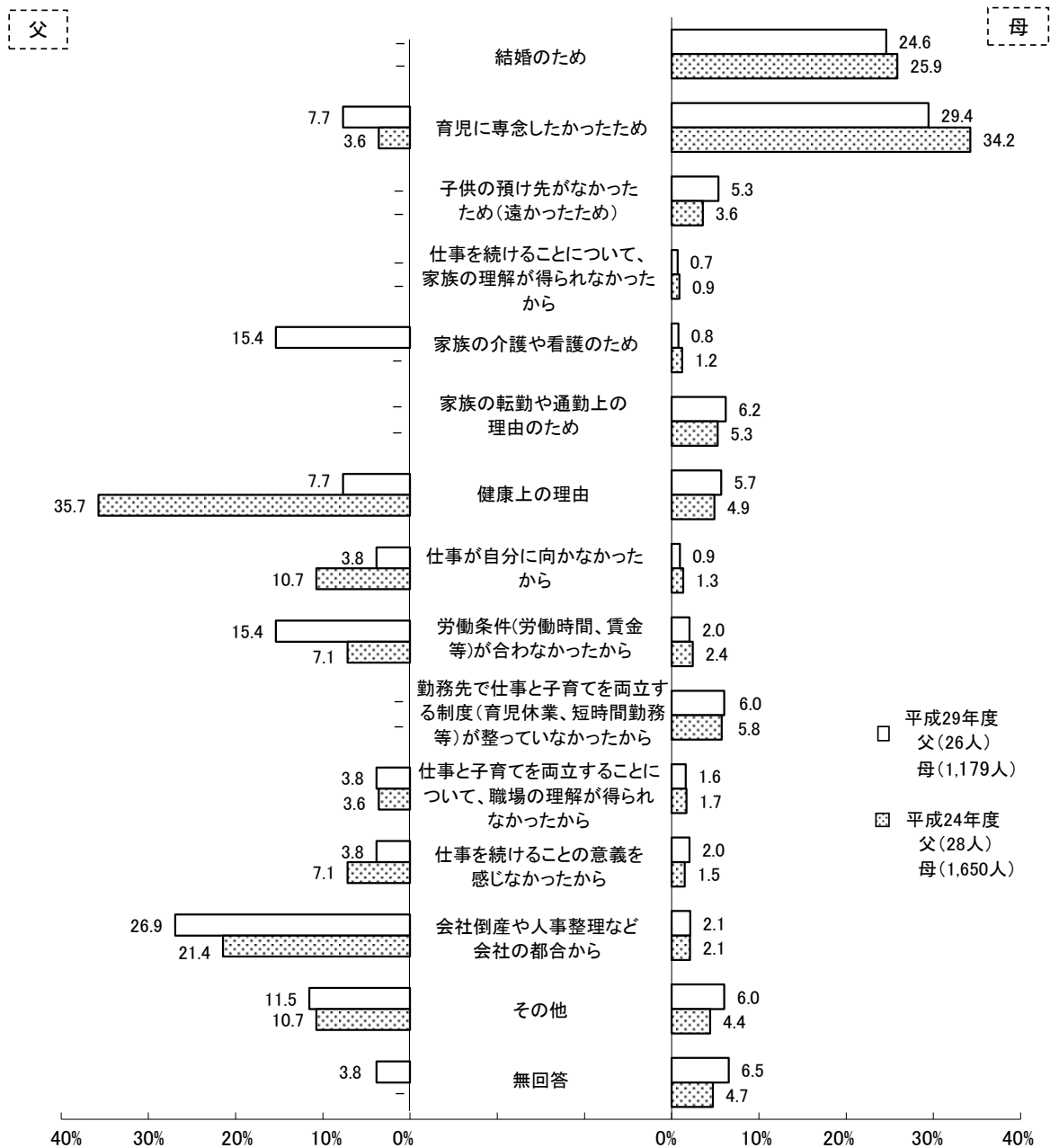
(2) 仕事をやめた理由－24年度調査との比較

母の「育児に専念したかったため」は24年度調査から4.8ポイント減少し、約3割

就労状況で、「以前は働いていた」と回答した父母(1,205人)に、仕事をやめた理由を聞いたところ、父は、「会社倒産や人事整理など会社の都合から」の割合が26.9%で最も高くなっている。

母は、「育児に専念したかったため」の割合が29.4%で最も高く、次いで「結婚のため」が24.6%となっている。24年度調査と比べて、母の「育児に専念したかったため」は、4.8ポイント、「結婚のため」は1.3ポイント低くなっている。(図Ⅲ-1-5 134p)

図Ⅲ-1-5 仕事をやめた理由－24年度調査との比較



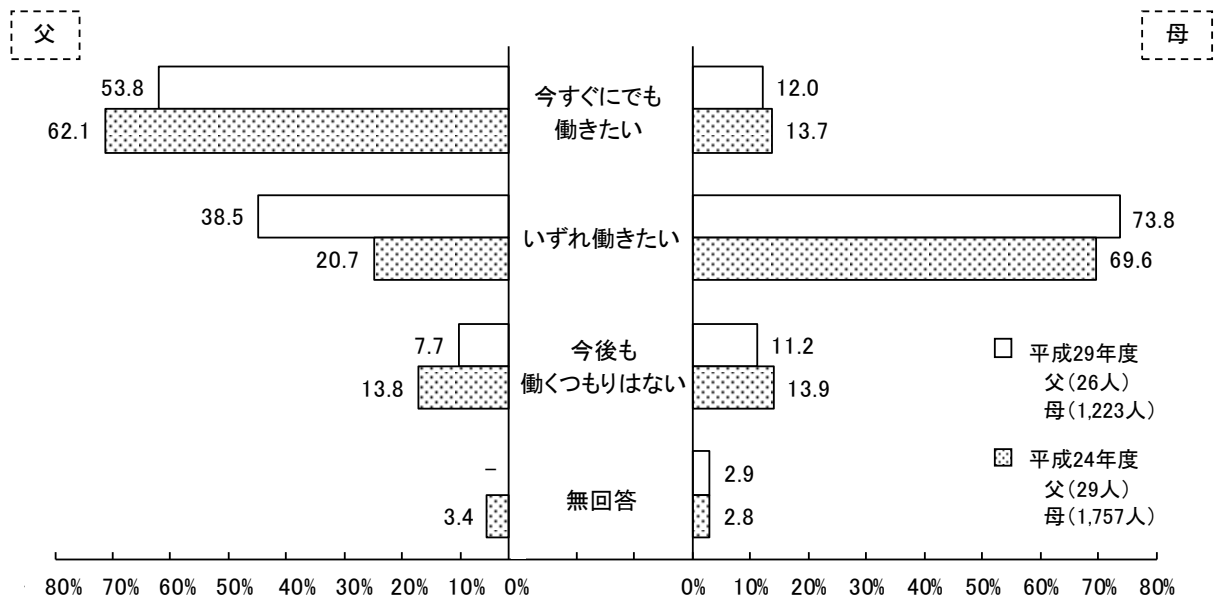
(3) 今後の就労希望－24年度調査との比較

「いずれ働きたい」母の割合は7割強

就労状況で、「以前は働いていた」又は「今まで働いたことはない」と回答した父母（1,249人）に、今後働きたいと思うか聞いたところ、父は「今すぐにでも働きたい」の割合が53.8%で最も高く、母は「いずれ働きたい」が73.8%で最も高くなっている。

母の「今後も働くつもりはない」の割合は11.2%で、24年度調査（13.9%）から2.7ポイント低くなっている。（図Ⅲ-1-6 136p）

図Ⅲ-1-6 今後の就労希望－24年度調査との比較

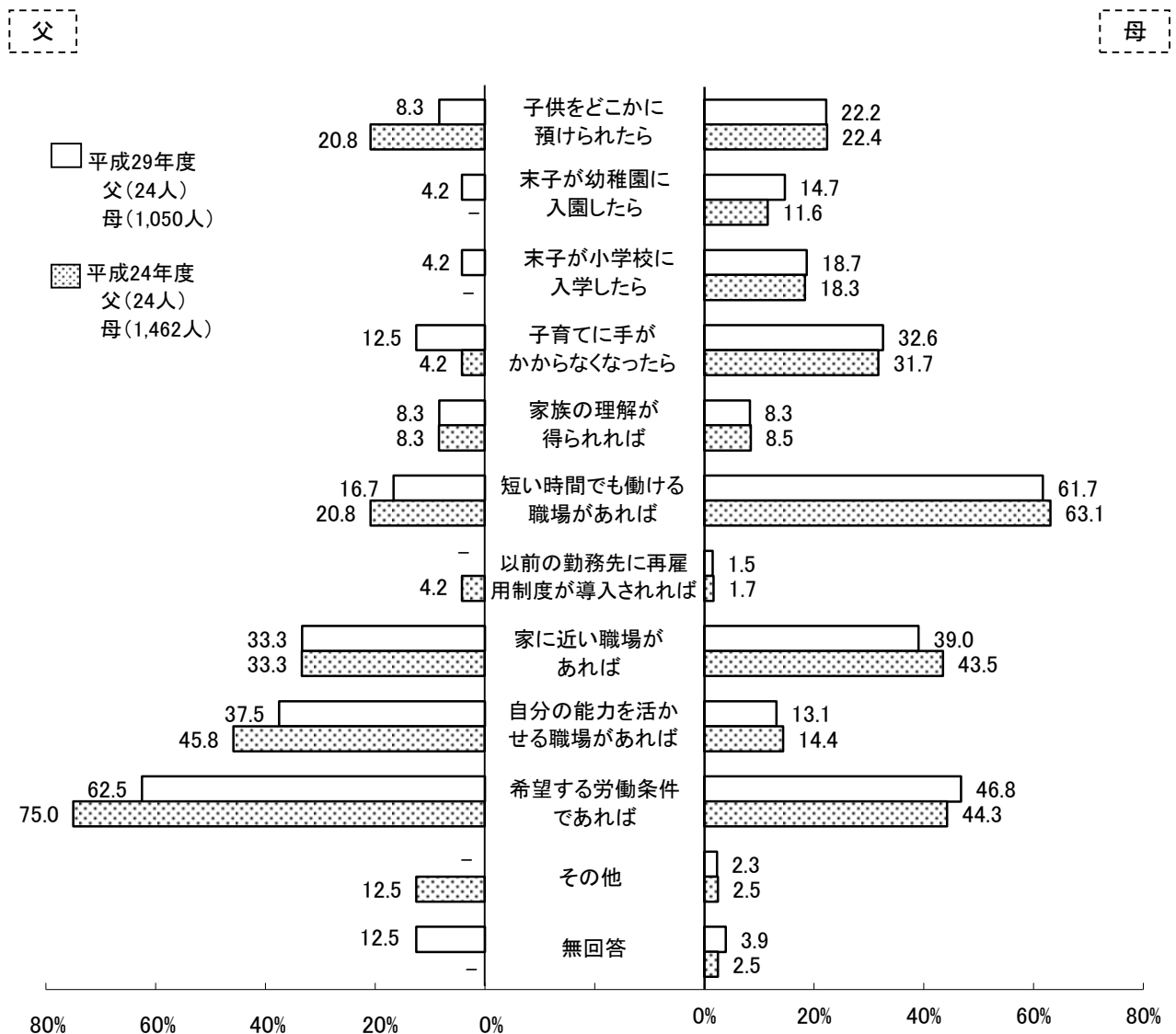


(4) 今後働くための条件〔複数回答〕－24年度調査との比較

母は「短い時間でも働ける職場があれば」の割合が最も高く6割強

今後の就労希望で、「今すぐにでも働きたい」又は「いずれ働きたい」と回答した父母(1,074人)に、どのような条件が満たされれば働くことができると思うか聞いたところ、父は、「希望する労働条件であれば」が62.5%で最も高く、母は「短い時間でも働ける職場があれば」が61.7%で最も高くなっている。(図Ⅲ-1-8 141p)

図Ⅲ-1-8 今後働くための条件〔複数回答〕－24年度調査との比較



2 育児休業制度

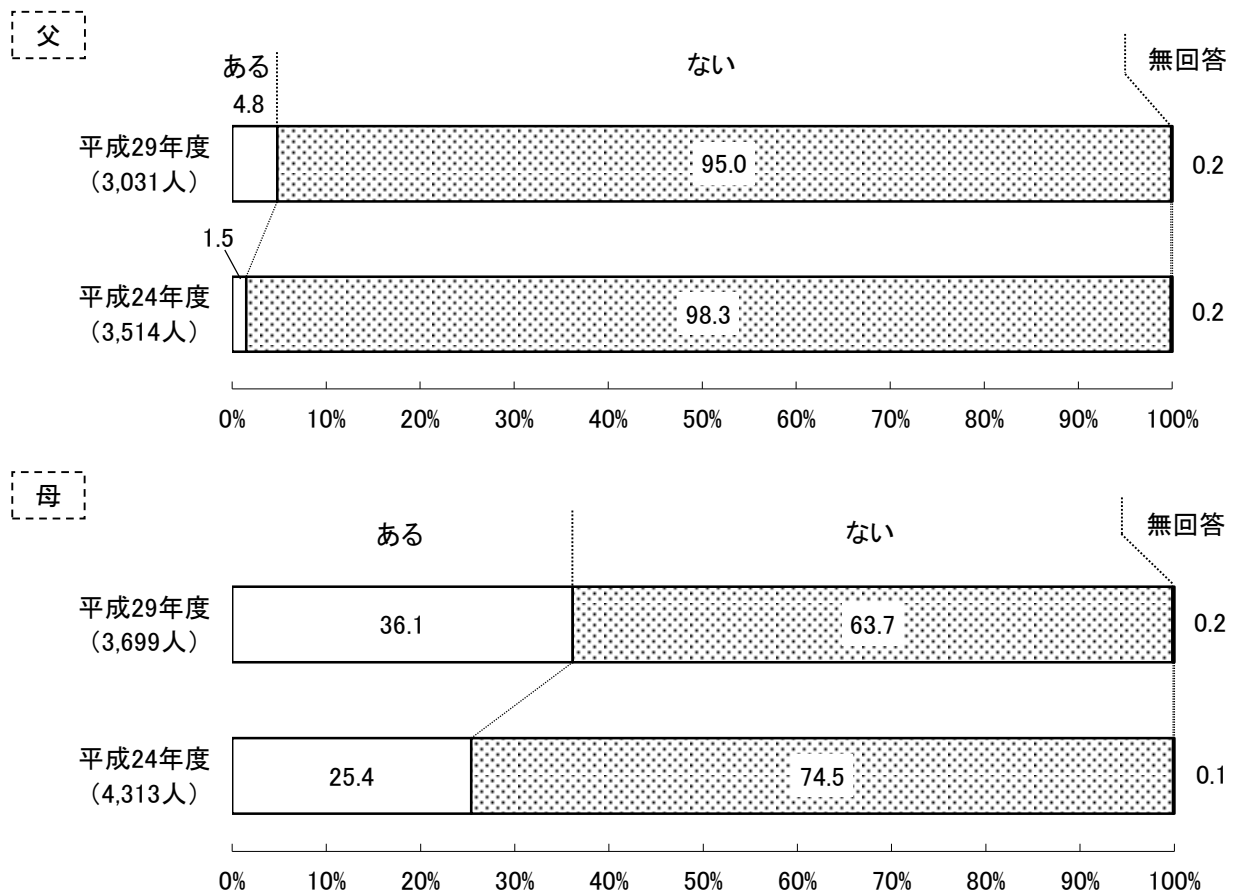
(1) 育児休業制度の利用の有無－24年度調査との比較

育児休業制度の利用割合は父母ともに増加し、母は3割超

対象者全員に育児休業制度を利用したことがあるか聞いたところ、「ある」と回答した割合は、父が4.8%、母は36.1%となっている。

24年度調査と比べ、「ある」の割合は、父は3.3ポイント、母は10.7ポイント高くなっている。(図Ⅲ-2-1 147p)

図Ⅲ-2-1 育児休業制度の利用の有無－24年度調査との比較



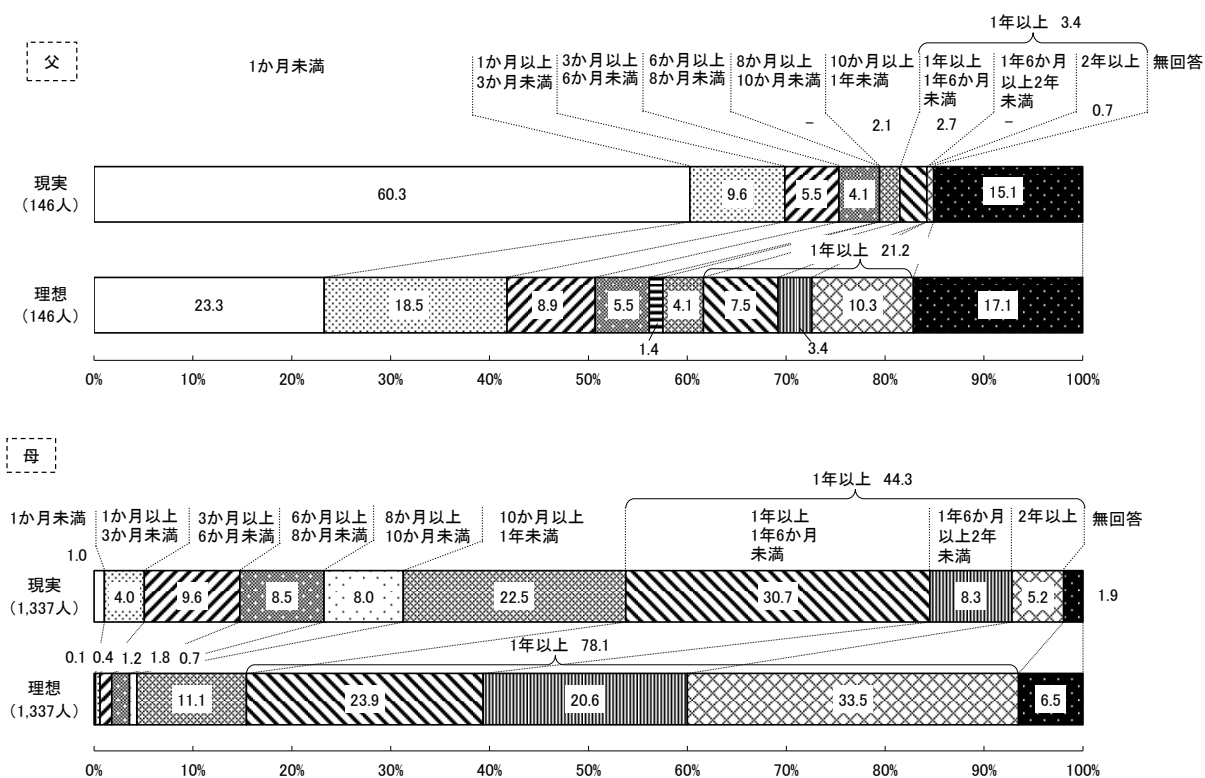
(2) 育児休業の取得期間の現実と理想

父は「1年以上」を理想とする割合が2割強だが、現実には1割以下、母は「1年以上」を理想とする割合が7割超だが、現実には4割強

育児休業制度を利用したことがある父母（1,483人）に、育児休業を取得した実際の期間と理想の期間を聞いたところ、父は、「1年以上1年6か月未満」、「1年6か月以上2年未満」、「2年以上」を合わせた、「1年以上」を理想としている割合は21.2%であるのに対して、現実には「1年以上」取得できた割合は3.4%となっている。

一方、母は「1年以上」を理想としている割合は78.1%であるのに対して、現実には「1年以上」取得できた割合は、44.3%となっている。（図Ⅲ-2-2 149p）

図Ⅲ-2-2 育児休業の取得期間の現実と理想



(注) 統計比率を合算した比率は、実数を用いて算出しているため、各比率を単純に合算した比率とは一致しない場合がある。

3 子育てに関して感じること

(1) 出産をしやすくするために必要なもの〔複数回答〕一性・年齢階級別

母は、「35～39歳」以下の各階級では、「仕事の時間を短縮したり、ずらしたりする制度」の割合が最も高い

出産をしやすくするために必要なものを性・年齢階級別にみると、父は「30～34歳」以外の全ての階級で「出産・育児のために退職した人が復帰できる制度の充実」の割合が最も高くなっている（38.3%～52.4%）。

母は「35～39歳」以下の各階級では「仕事の時間を短縮したり、ずらしたりする制度」の割合が最も高く（44.9%、45.8%、42.9%）、「40～44歳」以上の各階級では「出産・育児のために退職した人が復帰できる制度の充実」の割合が最も高くなっている（42.8%、45.5%、45.3%）。

（表Ⅲ-3-1 158p）

表Ⅲ-3-1 出産をしやすくするために必要なもの〔複数回答〕一性・年齢階級別

	総数	仕事の時間を短縮したり、ずらしたりする制度	育児休業制度の普及	子育てに理解のある職場環境の整備	児童手当など経済的な手当の充実	職場内保育施設の整備	出産・育児のために退職した人が復帰できる制度の充実	子供が病气やけがをしたときに休暇を取れる制度の充実	預けられる保育サービスを整備	夜間・休日を問わず、子供を預けられる保育サービスを整備	小学生の子供を預けられるサービスを整備	求職中に子供を預けられるサービスを整備	相談の場の整備	出産や子育てに関する情報提供や相談の場の整備	子育て家庭の住宅環境の整備	応援する機運の醸成	社会全体で子育てを	男女が共に子育てに携わる意識啓発	子供の遊び場環境の整備	その他	特になし	無回答
総数	100.0 (6,730)	37.4	36.2	33.1	28.7	6.3	43.9	5.8	5.5	1.7	2.4	18.8	4.7	17.8	12.5	0.7	3.6	0.0	4.9			
父	100.0 (3,031)	31.2	33.9	30.4	35.0	6.0	45.5	6.2	6.8	2.1	2.4	18.8	5.8	17.7	8.1	0.8	3.4	0.0	6.6			
29歳以下	100.0 (94)	33.0	31.9	26.6	36.2	5.3	<u>38.3</u>	10.6	6.4	-	2.1	22.3	2.1	17.0	9.6	1.1	3.2	-	6.4			
30～34歳	100.0 (454)	34.8	31.5	30.2	41.4	4.4	41.2	8.4	7.0	0.7	2.4	18.7	6.4	20.5	8.8	0.9	4.0	-	4.6			
35～39歳	100.0 (778)	32.1	29.3	33.5	39.7	6.4	<u>43.3</u>	5.8	7.7	3.1	2.4	17.0	6.8	17.5	7.5	0.8	3.7	-	7.2			
40～44歳	100.0 (900)	30.0	36.0	29.3	32.3	5.4	<u>48.6</u>	5.8	7.1	2.6	2.8	17.4	5.3	18.3	8.3	1.0	3.3	-	6.3			
45～49歳	100.0 (574)	29.3	36.6	30.1	30.8	7.5	<u>45.6</u>	5.1	5.4	1.9	2.4	21.3	6.1	16.6	8.9	0.7	2.6	0.2	6.6			
50歳以上	100.0 (231)	29.9	40.3	26.8	26.8	6.1	<u>52.4</u>	6.5	5.2	0.9	0.9	22.5	3.9	13.9	5.6	0.4	3.9	-	9.5			
母	100.0 (3,699)	42.5	38.0	35.3	23.6	6.5	42.6	5.5	4.4	1.4	2.3	18.9	3.8	18.0	16.1	0.6	3.7	-	3.5			
29歳以下	100.0 (198)	<u>44.9</u>	35.9	33.3	31.3	3.5	43.4	3.0	4.5	1.5	2.0	17.2	9.1	18.2	15.7	0.5	3.5	-	2.5			
30～34歳	100.0 (649)	<u>45.8</u>	34.5	36.5	24.8	5.7	39.0	3.7	4.9	1.4	1.7	18.5	4.6	20.2	17.6	0.6	4.9	-	2.6			
35～39歳	100.0 (1,041)	<u>42.9</u>	35.8	38.5	24.3	6.8	42.4	5.2	4.4	1.3	2.3	18.8	3.8	18.4	16.4	0.8	5.2	-	2.4			
40～44歳	100.0 (1,101)	42.7	39.0	34.4	21.3	6.9	<u>42.8</u>	5.9	3.9	1.5	2.4	19.3	3.1	17.2	17.2	0.7	2.9	-	3.7			
45～49歳	100.0 (571)	39.1	43.6	30.8	23.6	6.8	<u>45.5</u>	7.4	4.7	1.4	2.6	19.6	3.0	16.6	13.0	0.4	1.1	-	4.9			
50歳以上	100.0 (139)	32.4	43.2	33.1	18.7	7.2	<u>45.3</u>	7.9	4.3	-	4.3	18.0	2.2	15.1	11.5	0.7	5.0	-	8.6			

(2) 子育てをしやすくするために必要なもの〔複数回答〕－世帯の年間収入別

「200～300万円未満」から「600～800万円未満」の各階級では、「児童手当など経済的な手当の充実」の割合が最も高い

子育てをしやすくするために必要なものを世帯の年間収入別にみると、「200万円未満」では、「子供が病気やけがをしたときに休暇を取れる制度の充実」の割合が42.4%で最も高く、「200～300万円未満」から「600～800万円未満」までの各階級では、「児童手当など経済的な手当の充実」の割合が最も高くなっている(42.5%～51.4%)。また、「800～1,000万円未満」以上の各階級では、「子育てに理解のある職場環境の整備」の割合が最も高くなっている(38.4%～43.0%)。(表Ⅲ-3-7 165p)

表Ⅲ-3-7 子育てをしやすくするために必要なもの〔複数回答〕－世帯の年間収入別

	総数	仕事の時間を短縮したり、	育児休業制度の普及	子育てに理解のある職場環境の整備	児童手当など経済的な手当の充実	職場内保育施設の整備	出産・育児のために退職した人が復帰できる制度の充実	子供が病気やけがをしたときに休暇を取れる制度の充実	預けられる保育サービスの整備	夜間・休日問わず、子供を預けられる	小学生の子供を預けられる	求職中に子供を預けられる	求職中に子供を預けられる	相談の場の整備	出産や子育てに関する情報提供や相談の場の整備	子育て家庭の住宅環境の整備	社会全体で子育てを応援する機運の醸成	男女が共に子育てに携わる意識啓発	子供の遊び場環境の整備	その他	特になし	無回答
総数	100.0 (6,730)	31.6	12.0	39.0	39.6	14.3	8.2	37.6	17.3	14.7	5.6	2.4	7.2	20.5	14.4	13.5	3.9	0.0	2.7			
200万円未満	100.0 (236)	29.2	11.0	39.4	37.7	12.7	5.1	<u>42.4</u>	18.6	16.1	8.1	3.0	9.7	15.3	14.4	10.2	1.7	-	5.9			
200～300万円未満	100.0 (274)	27.0	9.9	42.7	<u>46.7</u>	14.2	4.4	39.4	18.2	8.0	7.3	1.1	12.0	13.5	10.9	13.9	2.6	-	4.4			
300～400万円未満	100.0 (486)	24.7	13.4	34.2	<u>51.4</u>	13.8	7.6	40.5	14.8	9.7	8.4	3.5	12.1	16.3	16.9	18.1	3.3	-	2.1			
400～500万円未満	100.0 (639)	27.4	12.4	38.7	<u>47.7</u>	13.6	7.5	40.8	15.3	11.6	6.9	1.9	9.7	19.2	11.6	14.1	2.8	-	2.7			
500～600万円未満	100.0 (922)	28.6	12.9	37.0	<u>47.3</u>	14.5	7.6	40.5	16.1	11.8	5.1	2.4	8.1	18.5	13.6	15.2	3.5	-	2.7			
600～800万円未満	100.0 (1,451)	31.4	12.1	38.2	<u>42.5</u>	13.0	8.2	39.1	15.6	12.5	6.1	3.0	7.0	22.1	13.8	13.6	4.3	-	2.4			
800～1,000万円未満	100.0 (1,020)	34.2	11.7	<u>41.5</u>	35.6	14.5	8.7	34.7	18.1	16.2	4.3	1.9	4.9	22.3	12.6	12.4	3.5	0.1	3.8			
1,000～1,200万円未満	100.0 (750)	34.9	11.5	<u>38.4</u>	31.3	15.9	8.4	35.9	19.2	22.9	3.9	2.1	4.8	23.6	17.5	12.4	5.5	-	0.9			
1,200～1,500万円未満	100.0 (419)	42.0	11.9	<u>43.0</u>	22.0	15.5	11.9	31.7	21.0	23.9	3.6	1.7	3.3	23.2	17.4	9.3	6.9	-	0.7			
1,500万円以上	100.0 (339)	36.6	11.5	<u>41.6</u>	20.9	17.4	9.7	29.8	24.5	17.7	4.1	2.7	5.0	21.8	19.5	12.1	4.1	-	3.2			

(3) 子育てをしていて日ごろ感じること

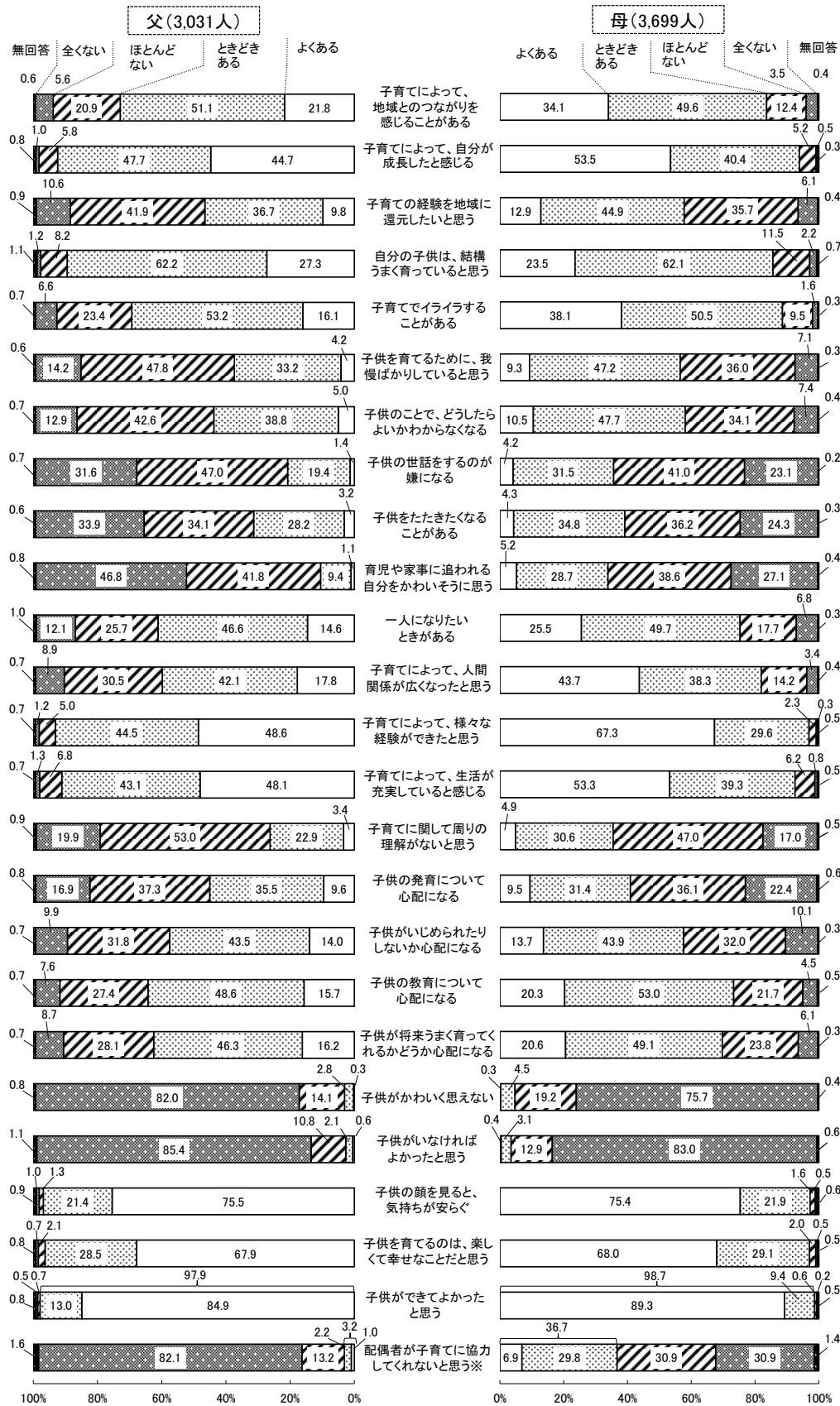
「配偶者が子育てに協力してくれないと思う」について「よくある」、「ときどきある」を合わせた割合は、母は3割超

対象者全員に子育てをしていて日ごろ感じることを聞いたところ、「よくある」、「ときどきある」を合わせた割合が最も高いのは、父母ともに「子供ができてよかったと思う」で、父が97.9%、母は98.7%となっている。

「子育てでイライラすることがある」、「子育てによって、人間関係が広がったと思う」では、「よくある」の割合について、母が父を20ポイント以上上回っている（父16.1%、17.8%、母38.1%、43.7%）。

また、「配偶者が子育てに協力してくれないと思う」については、「よくある」、「ときどきある」を合わせた割合は、母が36.7%、父は3.2%で、母が33.5ポイント高くなっている。（図Ⅲ-3-3 166p）

図Ⅲ-3-3 子育てをしていて日ごろ感じること



(注)「配偶者が子育てに協力してくれないと思う」については、両親世帯のみ集計対象としている(総数=父2,976人、母3,217人)

(4) 相談相手〔複数回答〕－性・年齢階級別

父は全ての階級で、母は「45～49歳」以下の全ての階級で「配偶者」の割合が最も高い

相談相手を性・年齢階級別にみると、父は全ての階級において、「配偶者」の割合が最も高くなっている（89.0%～93.1%）。母は「45～49歳」以下の全ての階級において、「配偶者」の割合が最も高いが（67.5%～85.6%）、「50歳以上」では「友人」が最も高く、64.8%となっている。（表Ⅲ-3-9 170p）

表Ⅲ-3-9 相談相手〔複数回答〕－性・年齢階級別

	総数	配偶者	自分や配偶者の親	左記以外の家族や親族	保育所や幼稚園、学校等の先生	塾や習いごとの先生	友人	子供を通じた親しくなった人	職場の人	隣近所の人	病院の医師、看護師	保健所・保健センターの保健師	公的機関の相談員	民間の相談窓口の相談員	インターネット（掲示板等）	その他	無回答
総数	100.0 (6,105)	83.4	64.2	20.6	27.4	7.0	53.3	28.5	33.4	6.9	10.9	3.8	3.6	0.5	5.9	1.0	1.4
父	100.0 (2,563)	91.5	55.8	13.4	11.3	2.3	34.3	7.6	42.1	4.1	6.1	1.1	1.5	0.2	6.2	0.5	1.5
29歳以下	100.0 (77)	<u>90.9</u>	70.1	15.6	3.9	-	32.5	2.6	64.9	1.3	5.2	-	-	-	3.9	-	-
30～34歳	100.0 (389)	<u>93.1</u>	68.6	15.9	10.5	0.3	37.8	3.1	53.5	3.3	6.2	1.0	0.8	-	5.7	0.5	1.0
35～39歳	100.0 (674)	<u>92.0</u>	58.2	13.8	11.3	1.8	33.4	5.0	43.9	4.6	6.1	1.8	1.5	0.3	6.4	0.7	2.2
40～44歳	100.0 (767)	<u>92.2</u>	55.7	11.7	13.7	2.9	34.2	9.8	40.3	3.7	6.4	0.5	1.6	0.1	6.8	0.4	1.3
45～49歳	100.0 (472)	<u>89.0</u>	46.4	13.8	8.7	3.0	33.3	11.0	36.9	4.0	5.1	1.3	1.7	0.2	6.1	0.4	1.3
50歳以上	100.0 (184)	<u>89.7</u>	38.0	12.0	13.0	5.4	34.2	10.9	23.4	7.6	7.6	1.1	2.7	0.5	6.0	0.5	1.6
母	100.0 (3,542)	77.6	70.3	25.9	39.0	10.4	67.0	43.6	27.1	8.9	14.3	5.8	5.1	0.7	5.6	1.3	1.3
29歳以下	100.0 (188)	<u>80.3</u>	86.2	28.2	28.7	0.5	68.6	22.9	27.7	5.9	18.6	10.1	3.2	-	8.0	1.1	1.1
30～34歳	100.0 (634)	<u>85.6</u>	80.4	27.0	43.8	5.2	67.0	37.2	27.4	8.5	18.3	10.3	6.6	0.5	6.9	0.9	0.3
35～39歳	100.0 (1,009)	<u>83.1</u>	74.3	25.8	43.4	8.1	67.5	45.5	27.3	9.4	15.7	7.2	5.2	0.8	6.4	1.0	1.0
40～44歳	100.0 (1,054)	<u>76.7</u>	68.7	23.2	37.9	13.9	66.8	49.0	25.7	9.3	12.2	3.8	5.0	1.0	4.6	1.2	1.4
45～49歳	100.0 (535)	<u>67.5</u>	57.0	26.5	33.8	17.0	66.5	46.0	28.2	8.4	10.8	1.7	4.3	0.6	2.6	1.7	2.8
50歳以上	100.0 (122)	38.5	32.8	36.9	24.6	13.1	<u>64.8</u>	36.1	29.5	9.8	9.0	0.8	4.1	0.8	9.0	4.1	0.8

4 地域における子育て

(1) 子育てをしていく上で整備してほしいもの〔複数回答〕－性・年齢階級別

母は、「35～39歳」以下の階級では、「子供が泣いても周囲の目を気にすることなく利用できる電車車両」の割合が、「40～44歳」以上の階級では、「子供が安全に遊ぶことができる公園」の割合が最も高い

子育てをしていく上で整備してほしいものを性・年齢階級別にみると、父は、「子供が安全に遊ぶことができる公園」の割合が、全ての年齢階級において最も高くなっている（53.7%～62.8%）。

母は、「35～39歳」以下の階級では、「子供が泣いても周囲の目を気にすることなく利用できる電車車両」の割合が最も高く（50.7%～62.1%）、「40～44歳」以上の階級では、「子供が安全に遊ぶことができる公園」の割合が最も高くなっている（43.9%～55.7%）。（表Ⅲ-4-1 182 p）

表Ⅲ-4-1 子育てをしていく上で整備してほしいもの〔複数回答〕－性・年齢階級別

	総数	授乳駅や 子供連れの オムツ替えの 場所がある 公共施設	子供連れの オムツ替えの 場所がある 公共施設	段差のない 歩道や駅など のバリアフリー	電車車両 が泣いても 周囲の目を 気にすること なく利用できる	両親が参加 できる子育て 学級	夜間・休日 を問わず、 気軽に 相談できる ところ	夏休みなど の長期休暇 中に 預かってくれる ところ	就学後の 子供を、 放課後や 長期休暇 中に 預かってくれる ところ	子供が安全 に遊ぶこと ができる公園	中高生向け の児童館	その他	特 に ない	無 回 答
総数	100.0 (6,730)	31.4	32.4	35.5	44.1	3.0	12.0	33.7	53.6	7.5	7.1	1.8	1.7	
父	100.0 (3,031)	30.8	35.2	30.0	40.2	4.5	13.3	27.7	56.8	5.9	6.8	2.8	1.6	
29歳以下	100.0 (94)	47.9	44.7	19.1	54.3	3.2	10.6	13.8	<u>62.8</u>	1.1	6.4	1.1	1.1	
30～34歳	100.0 (454)	43.8	38.8	29.3	49.1	3.7	10.6	20.9	<u>56.8</u>	2.9	9.7	1.5	1.1	
35～39歳	100.0 (778)	35.2	35.3	29.6	43.4	4.5	12.2	30.7	<u>53.7</u>	5.7	8.0	2.4	2.2	
40～44歳	100.0 (900)	25.3	35.3	31.0	36.8	4.4	12.7	28.3	<u>59.4</u>	7.2	5.6	3.1	1.4	
45～49歳	100.0 (574)	23.7	33.4	30.0	34.3	4.7	15.7	29.8	<u>56.8</u>	7.0	5.7	4.0	1.2	
50歳以上	100.0 (231)	22.5	28.1	33.3	34.2	5.6	19.9	29.4	<u>55.0</u>	7.4	4.3	2.6	2.6	
母	100.0 (3,699)	32.0	30.0	40.0	47.2	1.9	10.9	38.6	50.9	8.8	7.5	1.0	1.8	
29歳以下	100.0 (198)	58.1	34.3	38.4	<u>62.1</u>	2.5	6.1	21.7	48.5	2.5	3.0	1.0	2.0	
30～34歳	100.0 (649)	44.4	31.6	39.6	<u>54.7</u>	2.5	6.6	36.2	48.2	3.7	7.9	0.8	1.5	
35～39歳	100.0 (1,041)	34.3	31.7	42.0	<u>50.7</u>	2.0	11.1	39.0	47.8	8.5	7.2	1.0	1.7	
40～44歳	100.0 (1,101)	24.7	28.3	39.1	43.0	1.6	10.9	41.5	<u>55.7</u>	9.6	7.6	1.0	1.7	
45～49歳	100.0 (571)	21.4	27.0	40.5	39.4	1.4	14.2	40.1	<u>52.7</u>	14.0	8.6	1.4	1.6	
50歳以上	100.0 (139)	20.1	29.5	34.5	30.9	0.7	23.0	42.4	<u>43.9</u>	15.8	7.9	1.4	3.6	

5 家族のコミュニケーション

(1) 子供と一緒に過ごす時間（平日）－父母の1日あたりの実労働時間別

1日あたりの実労働時間が「10時間以上」の父は、「1時間未満」の割合が約6割

平日に子供と一緒に過ごす時間を父母の1日あたりの実労働時間別にみると、実労働時間が「6時間未満」の父は、子供と過ごす時間が「4～5時間未満」の割合が27.3%で最も高く、実労働時間が「10時間以上」では、「ほとんどない」、「30分未満」、「30分～1時間未満」を合わせた「1時間未満」の割合は59.4%となっている。（表Ⅲ-5-1 196p）

表Ⅲ-5-1 子供と一緒に過ごす時間（平日）－父母の1日あたりの実労働時間別

	総数	ほとんどない	30分未満	13時間0分未満	15時間2分未満	25時間3分未満	35時間4分未満	45時間5分未満	5時間以上	無回答
総数	100.0 (6,730)	3.1	6.0	10.0	12.2	11.8	11.9	13.4	30.5	1.1
父	100.0 (3,031)	6.7	12.9	20.7	22.7	17.7	9.8	5.6	2.9	1.0
働いている	100.0 (2,974)	6.7	13.0	20.8	22.9	17.8	9.8	5.4	2.6	1.0
6時間未満	100.0 (22)	4.5	9.1	4.5	13.6	4.5	18.2	<u>27.3</u>	18.2	-
6～7時間未満	100.0 (45)	-	8.9	2.2	17.8	15.6	22.2	15.6	17.8	-
7～8時間未満	100.0 (425)	3.1	6.6	14.8	21.4	24.2	12.9	11.5	4.2	1.2
8～9時間未満	100.0 (992)	5.4	9.0	17.6	23.8	22.8	12.2	6.1	2.1	0.9
9～10時間未満	100.0 (678)	6.5	12.8	26.4	26.3	15.0	7.4	2.9	2.1	0.6
10時間以上	100.0 (721)	10.7	23.3	25.4	21.2	9.6	5.1	2.1	1.5	1.1
働いていない	100.0 (32)	6.3	3.1	6.3	12.5	9.4	12.5	18.8	28.1	3.1
母	100.0 (3,699)	0.1	0.3	1.3	3.6	6.8	13.6	19.8	53.1	1.2
働いている	100.0 (2,137)	0.2	0.4	2.1	5.6	10.4	20.1	27.7	31.9	1.6
6時間未満	100.0 (670)	-	0.1	0.7	2.8	5.7	10.6	21.0	57.6	1.3
6～7時間未満	100.0 (382)	-	0.3	1.0	2.6	6.8	18.8	36.6	32.2	1.6
7～8時間未満	100.0 (583)	0.3	0.9	1.9	6.2	12.9	27.4	32.9	16.8	0.7
8～9時間未満	100.0 (348)	0.3	-	4.3	9.5	16.4	27.6	26.4	12.9	2.6
9～10時間未満	100.0 (67)	-	3.0	3.0	17.9	23.9	31.3	11.9	7.5	1.5
10時間以上	100.0 (34)	2.9	-	17.6	14.7	17.6	8.8	14.7	14.7	8.8
働いていない	100.0 (1,456)	0.1	-	0.1	1.0	1.8	4.3	8.3	83.8	0.8

(2) 子供と一緒に過ごす時間（休日）－父母の1日あたりの実労働時間別

父母ともに、1日あたりの実労働時間にかかわらず、「5時間以上」の割合が最も高い

休日に子供と一緒に過ごす時間を父母の1日あたりの実労働時間別にみると、父母ともに、実労働時間にかかわらず、「5時間以上」の割合が最も高くなっている（64.4%～75.3%、61.8%～91.9%）。（表Ⅲ-5-2 197p）

表Ⅲ-5-2 子供と一緒に過ごす時間（休日）－父母の1日あたりの実労働時間別

	総数	ほとんどない	30分未満	13時間0分未満	15時間2分未満	25時間3分未満	35時間4分未満	45時間5分未満	5時間以上	無回答
総数	100.0 (6,730)	0.5	0.4	0.7	1.8	3.1	3.6	5.8	81.2	2.8
父	100.0 (3,031)	1.0	0.7	1.3	3.0	5.1	6.1	8.3	72.1	2.4
働いている	100.0 (2,974)	0.9	0.7	1.2	3.0	5.1	6.1	8.3	72.2	2.4
6時間未満	100.0 (22)	-	-	-	9.1	-	4.5	13.6	<u>72.7</u>	-
6～7時間未満	100.0 (45)	-	4.4	-	4.4	6.7	4.4	13.3	<u>64.4</u>	2.2
7～8時間未満	100.0 (425)	0.9	0.5	1.4	1.6	5.6	6.1	6.4	<u>75.3</u>	2.1
8～9時間未満	100.0 (992)	0.6	0.6	1.2	2.5	5.3	7.1	8.1	<u>71.8</u>	2.8
9～10時間未満	100.0 (678)	0.9	0.4	0.6	4.1	4.3	5.2	9.3	<u>73.3</u>	1.9
10時間以上	100.0 (721)	1.4	1.0	1.8	2.9	5.4	6.0	7.5	<u>72.3</u>	1.8
働いていない	100.0 (32)	3.1	3.1	-	3.1	6.3	6.3	6.3	68.8	3.1
母	100.0 (3,699)	0.2	0.1	0.3	0.9	1.4	1.6	3.7	88.7	3.1
働いている	100.0 (2,137)	0.3	0.2	0.4	1.2	2.0	2.3	5.0	84.3	4.3
6時間未満	100.0 (670)	0.1	-	0.1	0.7	1.0	2.4	4.9	<u>88.2</u>	2.4
6～7時間未満	100.0 (382)	-	-	0.3	0.5	1.3	1.3	2.4	<u>91.9</u>	2.4
7～8時間未満	100.0 (583)	0.3	0.5	0.2	1.4	2.9	2.2	4.5	<u>82.2</u>	5.8
8～9時間未満	100.0 (348)	0.6	-	0.9	2.0	2.6	3.2	8.6	<u>75.6</u>	6.6
9～10時間未満	100.0 (67)	-	1.5	1.5	-	1.5	-	9.0	<u>82.1</u>	4.5
10時間以上	100.0 (34)	2.9	-	-	2.9	8.8	8.8	2.9	<u>61.8</u>	11.8
働いていない	100.0 (1,456)	0.1	-	0.1	0.5	0.6	0.5	1.7	95.3	1.2

6 夫婦の家事・育児分担

(1) 夫婦の家事・育児分担の割合（現実と理想）－共働きの状況別

現実には、共働き世帯、共働きでない世帯の父母ともに、「父 2 : 母 8」の割合が最も高く、理想は、共働き世帯の父は「父 5 : 母 5」、母は「父 4 : 母 6」が最も高い

夫婦の家事・育児分担の現実と理想の割合を共働きの状況別にみると、現実の家事・育児分担の割合は、共働き世帯の父母、共働きでない世帯の父母ともに、「父 2 : 母 8」の割合が最も高くなっている（父 28.1%、35.0%、母 28.0%、34.6%）。

理想の家事・育児分担の割合は、共働き世帯の父は「父 5 : 母 5」の割合が 37.0% で最も高く、母は「父 4 : 母 6」が 31.5% で最も高くなっている。共働きでない世帯では、父母ともに「父 3 : 母 7」の割合が最も高くなっている（27.2%、39.2%）。（表Ⅲ-6-1 210 p）

表Ⅲ-6-1 夫婦の家事・育児分担の割合（現実と理想）－共働きの状況別

現実	総数	配あなた	配あなた	配あなた	配あなた	配あなた	配あなた	配あなた	配あなた	配あなた	配あなた	配あなた	無回答
		0 (回答者) 10	1 (回答者) 9	2 (回答者) 8	3 (回答者) 7	4 (回答者) 6	5 (回答者) 5	6 (回答者) 4	7 (回答者) 3	8 (回答者) 2	9 (回答者) 1	10 (回答者) 0	
父	100.0 (2,976)	0.4	1.1	1.6	1.9	1.2	7.6	5.5	17.4	30.3	24.1	4.5	4.2
共働き世帯	100.0 (1,830)	0.3	1.0	1.3	2.0	1.7	10.0	6.8	19.5	<u>28.1</u>	20.8	4.2	4.5
共働きでない世帯	100.0 (1,030)	0.8	1.2	2.2	1.6	0.4	3.8	3.4	14.1	<u>35.0</u>	29.6	4.8	3.2
母	100.0 (3,217)	5.7	28.5	30.4	17.5	6.8	5.9	0.5	0.6	1.0	0.2	-	2.9
共働き世帯	100.0 (1,972)	5.1	26.7	<u>28.0</u>	18.7	8.4	7.9	0.6	0.6	1.1	-	-	3.0
共働きでない世帯	100.0 (1,106)	6.2	32.4	<u>34.6</u>	15.6	4.1	2.5	0.4	0.5	0.8	0.5	-	2.4

理想	総数	配あなた	配あなた	配あなた	配あなた	配あなた	配あなた	配あなた	配あなた	配あなた	配あなた	配あなた	無回答
		0 (回答者) 10	1 (回答者) 9	2 (回答者) 8	3 (回答者) 7	4 (回答者) 6	5 (回答者) 5	6 (回答者) 4	7 (回答者) 3	8 (回答者) 2	9 (回答者) 1	10 (回答者) 0	
父	100.0 (2,976)	0.3	0.9	1.5	2.0	2.2	31.4	20.5	22.0	10.4	3.1	1.5	4.1
共働き世帯	100.0 (1,830)	0.3	0.8	1.1	1.8	2.2	<u>37.0</u>	20.2	19.7	8.1	2.7	1.5	4.4
共働きでない世帯	100.0 (1,030)	0.3	0.9	2.3	2.1	2.0	21.3	21.2	<u>27.2</u>	14.3	3.7	1.6	3.2
母	100.0 (3,217)	0.5	2.4	9.9	28.6	29.2	23.8	0.8	0.6	1.0	0.2	0.1	3.1
共働き世帯	100.0 (1,972)	0.6	1.6	6.8	22.7	<u>31.5</u>	31.0	0.9	0.7	1.0	-	0.1	3.1
共働きでない世帯	100.0 (1,106)	0.4	3.7	15.2	<u>39.2</u>	25.1	11.4	0.5	0.5	0.8	0.5	0.1	2.5

7 東京の子供・子育て支援の施策が充実していると思うか

(1) 東京都の子供・子育て支援の施策が充実していると思うかー父母別

「そう思う」の割合は、父母ともに「小児・母子医療体制の整備」が最も高い

東京都が取り組んでいる子供・子育て支援施策について、充実していると思うかを父母別にみると、「そう思う」の割合は、父母ともに「小児・母子医療体制の整備」が最も高く（19.8%、19.5%）、次いで、父は「安全・安心の子育て環境づくり（災害時の支援や防火対策など）」が11.1%、母は「妊娠・出産に関する支援の推進」が10.2%となっている。

一方、「そう思わない」の割合は、父母ともに「待機児童対策・保育サービスの拡充」が最も高く（25.6%、28.5%）、次いで、父は「家庭生活との調和が取れた職場づくりの推進」が22.8%、母は「ライフスタイルや就業形態の多様化に応じた様々な保育サービスの提供」が22.4%となっている。（図Ⅲ-7-2 220p）

図Ⅲ-7-2 東京都の子供・子育て支援の施策が充実していると思うかー父母別

